

仙台平野の遺跡群XX

-平成21年度発掘調査報告書-

鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第5次・大野田古墳群第19次
南小泉遺跡第63次・燕沢遺跡第13次

2010年3月

仙台市教育委員会

仙台平野の遺跡群XX

-平成21年度発掘調査報告書-

鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第5次・大野田古墳群第19次
南小泉遺跡第63次・燕沢遺跡第13次

2010年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市は「杜の都・仙台」という愛称で広く親しまれ、四季折々の豊かな自然にあふれる仙台の風景は、私たち市民の誇りであると同時に将来へ守るべき大切な財産であります。

この仙台市の素晴らしい自然・風景と同様に、私たち市民の誇りであり大切な財産の一つに、悠久の歴史に育まれ守ってきた文化遺産（文化財）の存在が挙げられます。仙台市内には現在約800カ所もの遺跡が確認されております。これらの文化財は、これまでの大きな時の流れの中でその存在価値を高めるとともに、現在においては各種開発事業によって絶えず破壊・消滅の恐れにさらされています。当教育委員会としましては、皆様のご理解とご協力を賜りながら、これらの貴重な文化財を保存し、次世代へ受け継いでいくことに日々努めております。

本報告書には、各種開発に先立ち、平成21年度に発掘調査を実施した鴻ノ巣遺跡、小鶴城跡、大野田古墳群、南小泉遺跡、燕沢遺跡の調査結果を収録しております。

先人達の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たち市民の大変な仕事であると思います。つきましては、本報告書が、学術研究のみならず学校教育や生涯学習などのあらゆる場面で活用され、皆様の文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書刊行に際しましてご協力、ご助言をいただきました多くの方々に、心より深く感謝申し上げます。

平成22年3月

仙台市教育委員会
教育長 荒井 崇

例　言

1. 本書は、平成21年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書である。
2. 本書は、仙台市教育委員会が実施した個人住宅建築に伴う鴻ノ巣遺跡第12次、小鶴城跡第5次、大野田古墳群第19次、南小泉遺跡第63次、燕沢遺跡第13次の各発掘調査報告書を合本にした報告書である。
3. 本書の編集は、仙台市教育委員会文化財課調査係の担当調査員の協議のもとに森田義史がとりまとめ、執筆は次のように分担して行った。

主　事 鈴木 隆：調査計画と実績

主　事 森田 義史：鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第5次

主　事 大久保弥生：大野田古墳群第19次

文化財教諭 佐々木 匠：南小泉遺跡第63次

文化財教諭 菊地 貴博：燕沢遺跡第13次

臨時職員 千葉 恵彦：南小泉遺跡第63次

4. 遺物実測やトレース等の整理作業は、主に向田文化財整理収蔵室の作業員が行った。

5. 本書にかかるる遺物・写真・実測図面等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

6. 本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原：1976)に準拠した。

7. 本書中で使用した地形図は国土地理院発行の1：25000『仙台市南西部・南東部・北東部・北西部』の一部を使用している。

8. 断面図・平面図の標高値は、海拔高度を示している。座標値は、日本測地系による。

9. 遺物図版の縮尺は、任意とする。

10. 遺構は種別ごとに次の略号を用いた。

SI：堅穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SK：土坑

SE：井戸跡 P：ピット SX：性格不明遺構

11. 遺物の登録は、以下の分類と略号を用いた。

A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ） D：土師器（ロクロ） E：須恵器

F：丸瓦 G：平瓦 T：陶器 J：磁器 K：石器・石製品

L：木製品・杭材 N：金属製品 P：土製品 S：埴輪

12. 坚穴住居跡・掘立柱建物跡の柱穴及びピット内の網かけ部分は、柱痕跡の位置と範囲を示している。

13. 土師器実測図における網かけは、黒色処理されていることを示している。

14. 遺物観察表のカッコ内の法量は、残存値・推定値を示している。

15. 本文中の「灰白色火山灰」(庄子・山田1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄1980『宮城県に分布する灰白色火山灰』『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』

仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003『古代北東北の広域チフヲをめぐる諸問題－十和田山と白頭山（長白山）を中心に』〔日本律令制の展開〕吉川弘文館

目 次

序文

例言

目次

I 調査計画と実績

1 調査体制	1
2 調査計画	1
3 調査実績	1

II 鴻ノ巣遺跡第12次発掘調査報告

1 調査要項	2
2 調査に至る経過と調査方法	2
3 遺跡の位置と環境	3
4 基本層序	4
5 発見遺構と出土遺物	4
6 まとめ	6

III 小鶴城跡第5次発掘調査報告

1 調査要項	11
2 調査に至る経過と調査方法	11
3 遺跡の位置と環境	12
4 基本層序	13
5 発見遺構と出土遺物	13
6 まとめ	14

IV 大野田古墳群第19次発掘調査報告

1 調査要項	16
2 調査に至る経過と調査方法	16
3 遺跡の位置と環境	17
4 基本層序	17
5 発見遺構と出土遺物	18
6 まとめ	19

V 南小泉遺跡第63次発掘調査報告

1 調査要項	25
2 調査に至る経過と調査方法	25
3 遺跡の位置と環境	27
4 基本層序	28

5	発見遺構と出土遺物	28
6	まとめ	35
VI 燕沢遺跡第13次発掘調査報告		
1	調査要項	46
2	調査に至る経過と調査方法	46
3	遺跡の位置と環境	47
4	基本層序	47
5	発見遺構と出土遺物	47
6	まとめ	49
VII 郡山遺跡		55

I 調査計画と実績

1 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課 課長 田中剛和

整備活用係 主幹兼係長 吉岡恭平 主査 長島栄一 主事 宮田晋、森田賢司

調査係 係長 佐藤甲二 主査 主演光明、斎野裕彦

主事 鈴木隆、小泉博明、森田義史、大久保弥生

文化財教諭 佐々木伝、菊地貴博、吉野信 隠時職員 千葉恭彦

2 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、個人専用住宅他補助対象事業費として、総経費7,686千円、国庫補助金額3,715千円の予算で計画した。発掘調査の実施については、以下の実施計画を立案した。

調査対象地	調査予定期間	調査実定期間	調査原因
都心各区内	28地点	平成21年4月～平成22年1月	個人住宅建設

第1表 調査計画

3 調査実績

今年度の調査実績は、第2表に示したとおりである。調査原因是、全て個人専用住宅の建築である。なお、第2表中で調査次数がついている遺跡については、都心遺跡を除いて、本書にその成果を掲載している。

No.	遺跡名	対象面積	調査面積	調査期間	調査実績	調査次数	編JIN番
1	喜久井遺跡	62.08㎡	23㎡	4月15日～4月16日		H21 132-12	
2	郡山遺跡	102.68㎡	32.4㎡	4月20日～4月22日	194次	H20 184-289	
3	酒門遺跡	88.64㎡	24㎡	5月25日～5月27日	129次	H21 132-14	
4	西野大塚跡	75.05㎡	28.8㎡	6月1日～6月2日		H20 184-297	
5	角山遺跡	70.42㎡	36.5㎡	6月9日～6月10日		H21 132-22	
6	利山遺跡	68.93㎡	20㎡	6月22日～6月24日	195次	H21 132-25	
7	河口遺跡	63.97㎡	26.6㎡	6月29日		H21 132-30	
8	河原遺跡	118.93㎡	33.6㎡	7月6日		H21 132-38	
9	小山遺跡	1,200㎡	64.8㎡	7月21日		H21 175-5	
10	津野井遺跡	67.89㎡	31.2㎡	8月3日		H22 132-49	
11	柴田日堂跡	84.75㎡	20㎡	9月1日		H22 132-46	
12	津野井遺跡	79.5㎡	22.5㎡	9月7日		H21 132-66	
13	小鶴城跡	177.67㎡	26㎡	9月28日～9月29日	5次	H21 152-94	
14	丘上遺跡	36.43㎡	2.5㎡	10月3日		H21 132-73	
15	喜馬六丁目遺跡	80.25㎡	26㎡	10月6日		H21 152-89	
16	山川ノ谷遺跡	181.5㎡	36㎡	10月13日～10月14日		H21 132-101	
17	人見山遺跡	111.33㎡	33.75㎡	10月19日		H21 132-61	
18	人見山遺跡	115.95㎡	41.25㎡	10月19日～10月22日	4次	H21 132-113	
19	南小畠遺跡	49.68㎡	29㎡	10月26日～11月13日	63次	H21 132-89	
20	南小畠遺跡	49.68㎡	33.8㎡	10月26日～11月13日	63次	H21 132-90	
21	孫氏古跡	39.6㎡	2.5㎡	11月16日～11月19日	13次	H21 132-95	
22	津野井遺跡	72㎡	21.44㎡	11月16日		H21 132-100	
23	東城五条跡	53.17㎡	18㎡	11月24日～11月25日		H21 132-12	
24	郡山遺跡	103.22㎡	15㎡	11月30日		H21 132-105	
25	喜山遺跡	73.25㎡	30㎡	12月2日～12月3日	197次	H21 132-122	
26	喜山遺跡	77.61㎡	70㎡	12月14日～12月18日	196次	H21 132-111	
27	東山遺跡	83.63㎡	22.5㎡	平成22年1月7日～12日		H21 132-154	
28	今井古跡	65.99㎡	30㎡	1月27日～1月2日		H21 132-145	

第2表 調査実績

II 鴻ノ巣遺跡第12次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	鴻ノ巣遺跡（宮城県遺跡番号01034）
調査地点	仙台市宮城野区岩切字三所北125-28
調査期間	平成21年5月25日～27日
調査対象面積	88.64m ²
調査面積	24m ²
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	文化財教諭 佐々木近 文化財教諭 菊地貴博

2 調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年4月16日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H21教生文第152-14号で回答）に基づき実施した。調査は、平成21年5月25日



番号	遺跡名	種別	江戸	時代	番号	遺跡名	種別	立場	時代
1	鴻ノ巣遺跡	施設、居住、水田	自然環境	弥生～古墳	8	今市遺跡	生活、居住地	自然環境	平安、中世
2	新之口遺跡	施設、居住、水田	自然環境	古墳～近世	9	吉室低伏穴墓群	墓穴	丘塁	古墳
3	岩切城跡	城跡	自然	中世	10	東原圓溝16	隕石堆	自然環境	平安
4	東光守城跡	城跡	自然	中世	11	前山西跡	魚塚	自然環境	古墳、古代、中世
5	東光守城跡	城跡、石室、赤瓦、瓦類	丘陵斜面	中世	12	日下遺跡	魚塚	自然環境	自然、古墳、古代
6	石室前遺跡	城跡、石室、赤瓦、瓦類	丘陵斜面	平安～近世	13	6月跡遺跡	官衙・墓塚	自然環境	平安～中世
7	羽瀬前遺跡	城跡、石室、瓦類	丘陵	中世、近世	14	多賀遺跡	圓頂	丘塁	平安

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 調査地点位置図

に着手した。対象地内に南北3m×東西8mの調査区を設定し、重機により盛土およびI層を除去した後、II層上面において遺構検出作業を実施し、溝跡3条を検出した。遺構調査後、写真・図面により記録した。その後、調査区東部に深堀区を設定し、重機により掘削を行ったところ、IV層上面において溝跡2条を検出したため、遺構の掘り下げを行い、写真・図面により記録した。その後埋め戻しを行い、調査を終了した。

3 遺跡の位置と環境

鴻ノ巣遺跡は仙台駅から北東約7km、七北田川右岸の自然堤防上に位置する。標高は約8mである。

遺跡周辺の歴史的環境を見ると、本遺跡の対岸の自然堤防上に古墳時代中期の新田遺跡（多賀城市）がある。ここでは埴輪片も採集されており、付近に高塚古墳があった可能性が考えられている。西側の丘陵地帯には台屋敷遺跡群などの横穴墓群がある。

古代に入ると、陸奥国の国府である多賀城が本遺跡の東約3kmの丘陵上におかれた。周辺の自然堤防や北西の丘陵地帯には、燕沢遺跡をはじめ、奈良・平安時代の遺跡が多数存在する。

中世の遺跡では、北西の丘陵に国指定史跡である岩切城がある。これは源朝によって、多賀城（陸奥国府）留守職に補任された伊沢（留守）家景の構えた館で、代々留守氏の拠点となっていた。麓に留守氏の菩提寺である東光寺があり、その境内には中世の磨崖仏や板碑が多数残されている。

『留守文書』には鎌倉時代の後半、領内に冠屋市場、河原宿五日市場、在家などの記載が見られ、当時七北田川は冠川と呼ばれていたことから、鎌倉時



第3図 調査区配置図

代の七北川流域における商業活動の営みを知ることができる。また、市の所在地は明確ではないが、付近の洞ノ口遺跡では溝で区画された人規模な屋敷跡などが見つかっており、留守氏との密接な関連性も考えられ、中世における繁栄の様子が明らかになりつつある。鴻ノ巣遺跡でも、これまでの調査で中世の遺構群が検出されており、こうした留守氏に関わる遺構群とともに、この地域一帯を景観として理解していくことが可能となっている。

4 基本層序

基本層は、大別4層、細別5層確認された（第5図）。I層は層厚は15~55cmで、色調により2層に分けられる。II層は層厚10~25cmの黒色粘土質シルト層、III層は層厚5~13cmの黒褐色粘土質シルト層である。IV層は層厚14cm以上のにおい黄橙色砂質シルト層である。なお、調査地点には17~61cmの盛土がある。

5 発見遺構と出土遺物

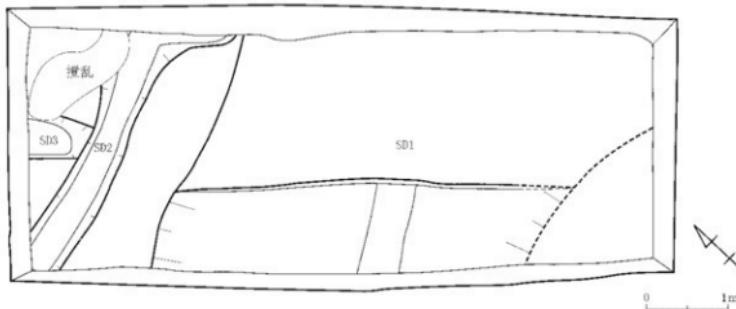
（1）II層上面検出遺構

1) 溝跡

SD1溝跡 調査区中央部で検出した。全体の方向はほぼ南西～北東方向であるが、調査区北側で東に向かって拡がる様相が見られる。検出長は約3.2mで、さらに調査区外へ延びる。上端幅約3.6~4.0m、下端幅約50cm、深さ約85cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は4層である。なお、溝跡の東側上端については明瞭に検出されなかつたため、調査区東部を一部掘り下げ、南壁において溝跡の断面を検討し、平面図を作成した。出土遺物は1層中より土師器片10点、須恵器片4点、中世陶器片4点、3層中より須恵器片3点、中世陶器片3点、砥石1点が出土している。中世陶器のうち、堀之内縁部資料（第7図5）が常滑窯の振年5~6a型式にあたることから13世紀代の年代（中野2005）が考えられる。

SD2溝跡 調査区西側で検出した。南西～北東方向の溝跡である。SD3溝跡と新旧関係があり、SD3溝跡より新しい。検出長は3.3mで、さらに調査区外へ延びる。上端幅約55cm、下端幅約35cm、深さ約20cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は单層である。出土遺物は土師器片が56点、常滑産陶器が1点、堆積土中から出土している。

SD3溝跡 調査区西側で検出した。北西～南東方向の溝跡である。SD2溝跡と新旧関係があり、SD2溝跡より古い。検出長は70cm、上端幅約60cm、下端幅約40cm、深さ約18cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は单層である。出土遺物はない。

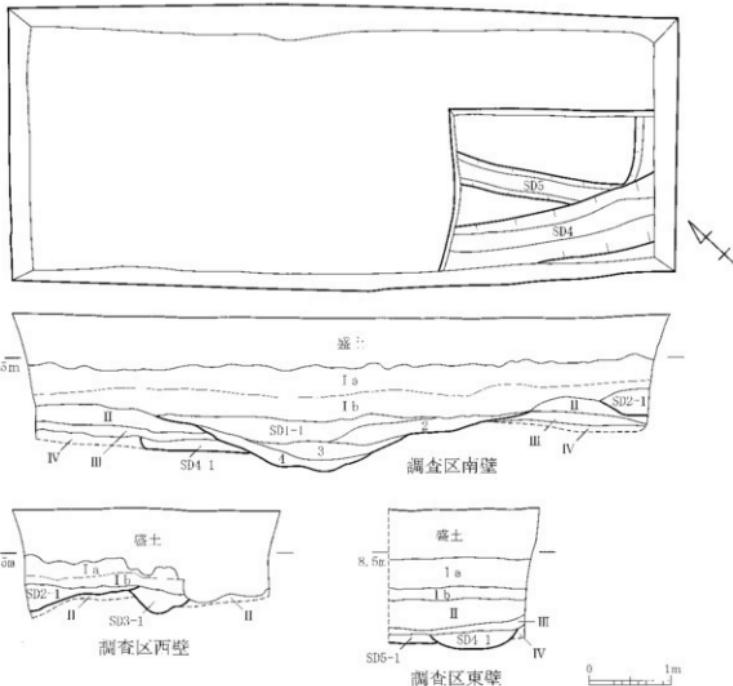


第4図 II層上面検出遺構平面図

(2) IV層上面検出遺構

1) 溝跡

S D 4 溝跡 調査区東部で検出した。東西方向の溝である。S D 5 溝跡と新旧関係があり、S D 5 溝跡より新しい。検出された溝の全長は約2.5m、上端幅約60~90cm、下端幅約20cm、深さ約20cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。出土遺物はない。



調査区西壁

調査区南壁

調査区東壁

基準番号	上	中	下	右
I a	10YR 4/2 黄褐色	砂質シルト		
I b	20YR 3/2 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を微含む。	
II	10YR 4/4 緑色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。	
III	10YR 3/1 黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多量含む。	
IV	10YR 6/3 ないし黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。	

番号	堆積土	上	中	下	右
SD 1	1	10YR 4/2 黄褐色	砂質シルト		
	2	10YR 3/2 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を微量含む。	
	3	10YR 4/1 黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を多量含む。	
	4	10YR 4/1 黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を多量含む。下部グライ化(5B5/2)。	
SD 2	1	10YR 3/1 黄褐色	砂質シルト		
SD 3	1	10YR 4/2 黄褐色	砂質シルト		
SD 4	1	10YR 4/1 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。	
SD 5	1	10YR 6/1 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。	

第5図 IV層上面検出遺構平面図および調査区断面図

SD 5溝跡 調査区東側で検出した。調査区東壁際で南北方向に伸び、東西方向に折れ曲がる。SD 4溝跡と新旧関係があり、SD 4溝跡より古い。規模は上端幅約35cm、下端幅約20cm、深さ約1cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。出土遺物はない。

6 まとめ

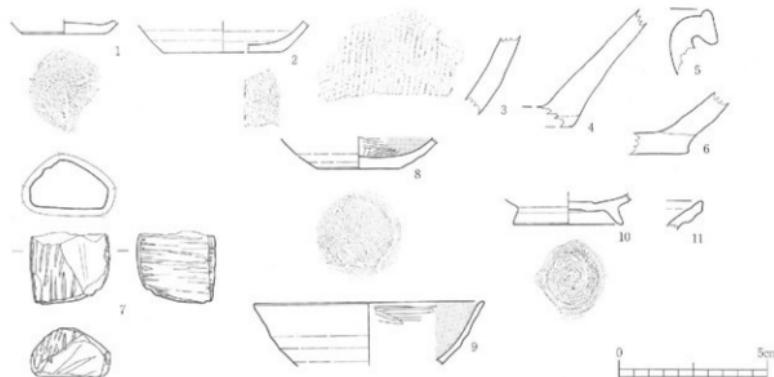
- ①今回の調査では、Ⅱ層上面において溝跡3条（SD 1～3）、Ⅳ層上面において溝跡2条（SD 4・5）を検出した。
- ②SD 1溝跡は、平成20年度に北側隣接地の確認調査で検出されたSD 1溝跡の南延長部分であり、この溝は南北方向にさらに伸びる可能性がある。堆積土中から土師器片や須恵器片、中世陶器片が出土し、平安～中世の時期が考えられるが、詳細な時期については不明である。
- ③SD 2溝跡からはロクロ土師器片が一定量出土したが、詳細な時期については不明である。
- ④SD 4溝跡、SD 5溝跡はⅣ層上面において検出されたが、出土遺物はなく、時期、性格とも不明である。



第6図 SD 1溝跡平面図（平成20年度・今回調査区）

参考文献

- 仙台市教育委員会2004「鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第280集
仙台市教育委員会2009「V鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書」「仙台平野の遺跡群XIX」仙台市文化財調査報告書第346集
中野晴久2005「常滑・渥美」「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」全国シンポジウム発表要旨集



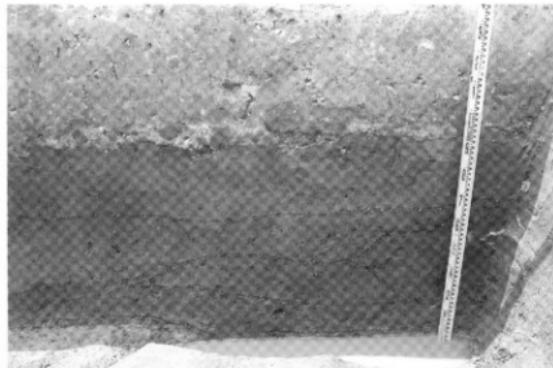
第7図 SD 1、SD 2溝跡出土遺物（SD 1：1～7、SD 2：8～11）



1 II層上面遺構検出全景（東から）



2 SD 2溝跡完掘状況（南から）

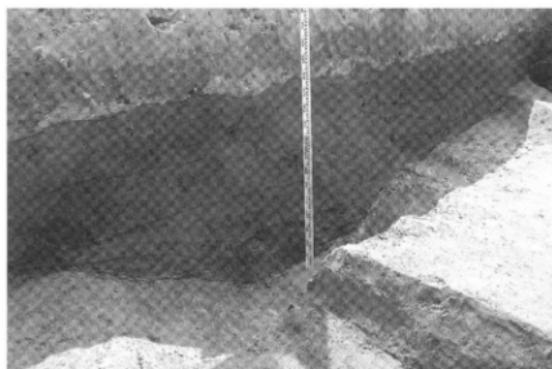


3 調査区西側南壁断面（北から）

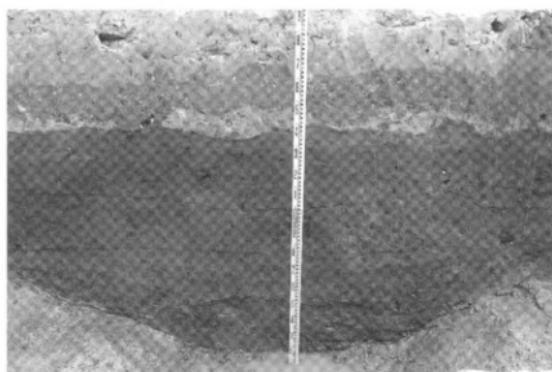
図版1 II層上面検出遺構および調査区断面図(1)



1 II層上面遺構全景（東から）

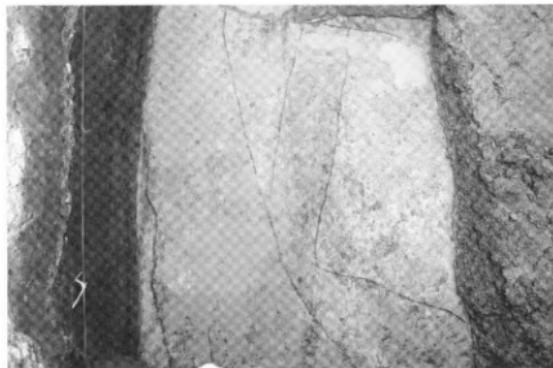


2 SD 1溝跡調査区南壁断面
(北西から)

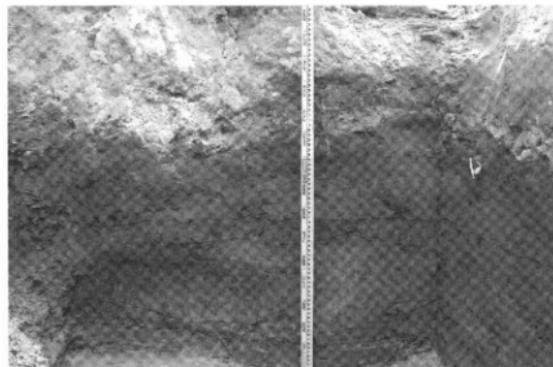


3 SD 1溝跡調査区南壁断面（北から）

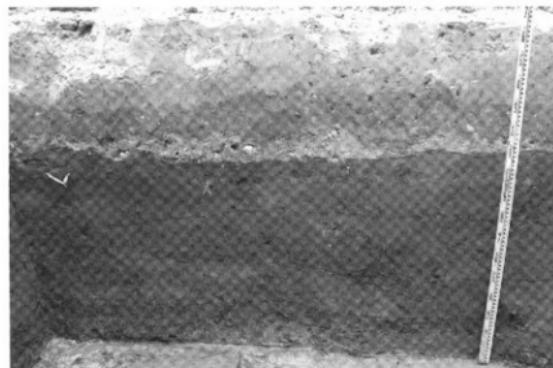
図版2 II層上面検出遺構および調査区断面図(2)



1 深掘区IV層上面遺構検出状況
(東から)

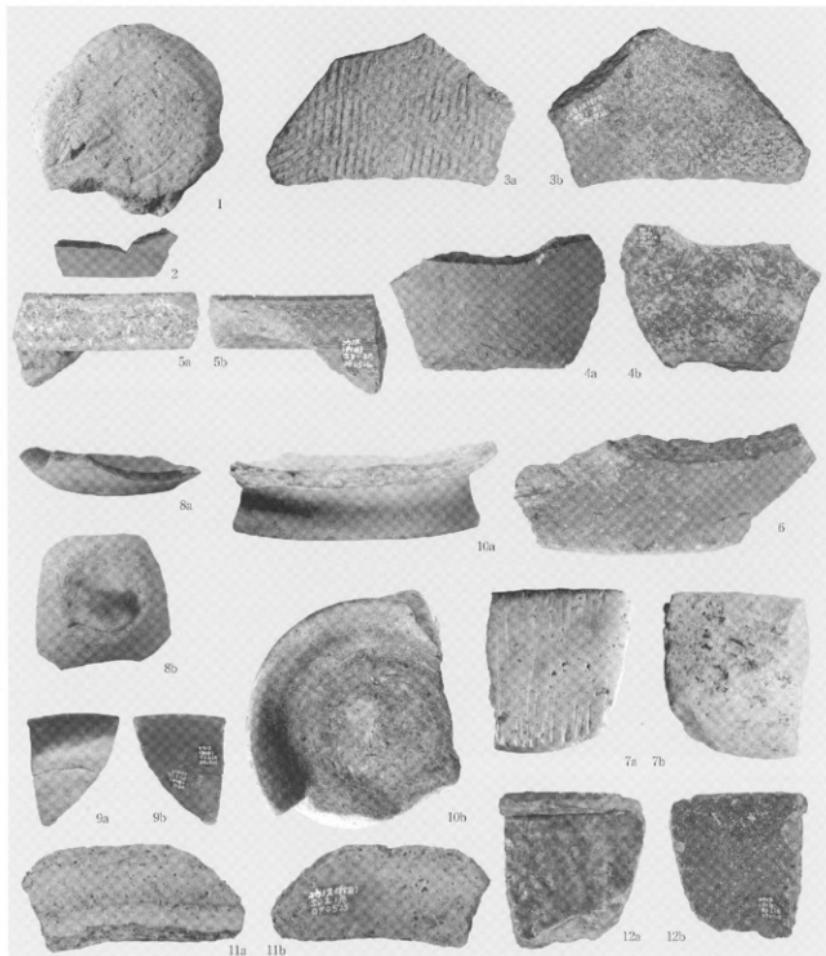


2 調査区東壁断面 (西から)



3 調査区南壁東側断面 (北から)

図版3 IV層上面検出遺構および調査区断面



図版4 出土遺物

件名番号	縦横骨格	遺傳者	出土層位	種別	脊種	法 厘 cm	直 徑 厘 m	皮 厚 厘 m	集 考	写真回数
7-1	D-1	S.D.1	1	ロクセイ上物部	牙	(0.8)	—	9.6	外側「コココナヂ」武周印軸丸彫り	5-1
7-2	E-1	S.D.1	1	黒毛櫛	牙	(2.0)	—	—	内側「ココナヂ」外側「ココナヂ」直切ヘタ彫り	5-2
7-3	E-2	S.D.1	3	黒毛櫛	美	—	—	—	外側「ククモ」	5-3
7-4	F-1	S.D.1	1	鉤形	美	—	—	—	—	5-4
7-5	I-2	S.D.1	3	鉤形	美	—	—	—	直通5-6mm切欠	5-5
7-6	I-3	S.D.1	3	鉤形	美	—	—	—	7月19日、大船アマ、青浦	5-6
7-7	K-1	S.D.1	3	弓張石	磨石	(4.8)	5.3	3.3	直通11-36mm、磨状面あり	5-7
7-8	D-2	S.D.2	1	ロクセイ上物部	牙	(2.1)	—	5.6	内側「ハラミガキ」、黑色弦紋、外側「ココナヂ」、弧形凹凸系切欠	4-8
7-9	D-3	S.D.2	1	ロクセイ上物部	牙	(4.2)	(15.3)	—	内側「ハラミガキ」、黑色弦紋、外側「ココナヂ」	4-9
7-10	D-4	S.D.2	1	ロクセイ上物部	高台牙	(2.1)	—	7.5	外側「ココナヂ」、武周印軸ヘタ彫り	4-10
7-11	D-5	S.D.2	1	ロクセイ上物部	美	—	—	—	内側「ココナヂ」	4-11
	1-4	S.D.2	1	鉤形	美	—	—	—	直通4-5mm切欠	4-12

III 小鶴城跡第5次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	小鶴城跡(宮城県遺跡番号01194)
調査地點	仙台市宮城野区新田三丁目44-1、45-1の一部
調査期間	平成21年9月28日～29日
調査対象面積	177.67m ² (敷地面積1007.54m ²)
調査面積	24m ²
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	文化財教諭 佐々木匡 文化財教諭 菊地貴博

2 調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年8月24日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条(H21教生文第152-94号で回答)に基づき実施した。確認調査は平成21年9月28日



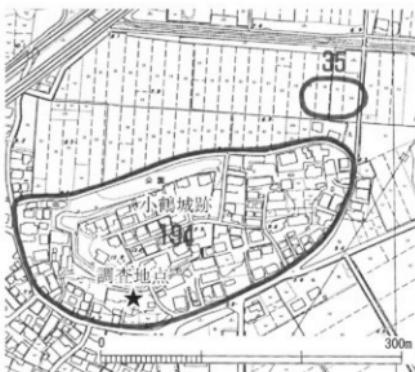
番号	遺跡名	種類	立地	時代	骨壙	遺跡名	種類	立地	属性
1	小鶴城跡	城館	丘陵	中世	30	安泰寺跡(古墳跡)	古墳	丘陵斜面	古墳群、平安
2	小鶴城跡	城館	丘陵	平安	31	安泰寺跡(古墳)	古墳	丘陵斜面	平安
3	古墳(東扶内墓群)	丘陵斜面	丘陵	古墳	12	安泰寺跡(古墳)	古墳	丘陵斜面	古墳、平安
4	古墳(東扶内墓群)	丘陵斜面	丘陵斜面	古墳	13	小川原山古墳	古墳	丘陵斜面	古墳
5	古墳(古墳)	丘陵	丘陵	魏晉～平安	14	柳町社跡	古墳	丘陵斜面	古墳、平安
6	古墳(古墳)	丘陵	丘陵	平安	15	柳町社(古墳)	古墳	丘陵	古墳、平安
7	古墳(古墳)	丘陵斜面	丘陵	古墳	16	二の森古墳	古墳	丘陵斜面	古墳
8	古墳(古墳)	丘陵	丘陵斜面	古墳	17	二の森古墳	古墳	丘陵斜面	古墳
9	安泰寺中風呂塗跡	周塁	丘陵	平安	18	与添東古墳	古墳	丘陵斜面	古墳、平安、古墳

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

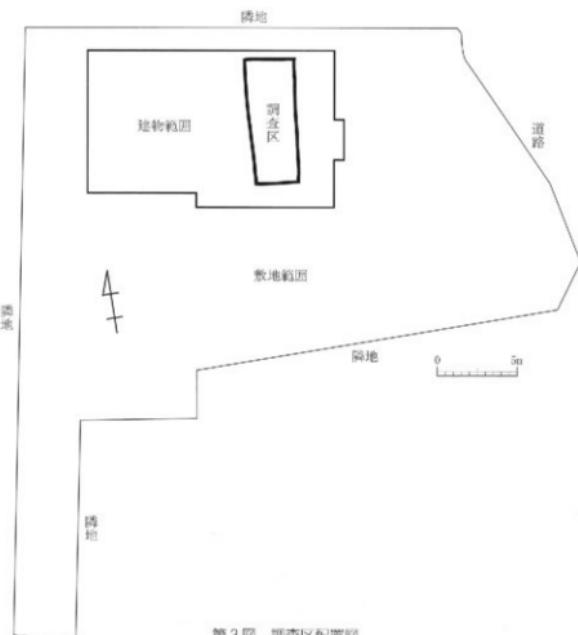
に着手した。調査区は南北7.5m×東西3mに設定した。重機により盛土、表土を除去し、1層上面において遺構検出作業を行ったところ、溝跡1条を検出した。検出面はすでに地表面から1.3mの深さであり、今回の個人住宅建築工事に伴う掘削深度は地表面から1.5mという計画であるため、塗構の掘り下げは溝跡の西側部分で行い、その後、断面および平面について写真・図面で記録を取り、調査を終了した。調査終了後、埋め戻しを行った。

3 遺跡の位置と環境

小鶴城跡は、後背湿地に突き出した舌状丘陵に立地する。かつて、城跡の南側一帯は小鶴沼が広がっていたといわれ、その南を東西に小鶴川が流れている。しかし、小鶴沼は、江戸時代中期に大部分が水田化されている。城跡の西側には、戦国期の幹線道路である「東街道」が通っていたと考えられている。城跡頂部の標高は約16mで、周囲の水田との比高差は約11mである。これまでの発掘調査では、主に城跡の北東部および北西部において堀跡が確認されている。特に北東部の堀跡は、上幅6m以上、深さ2.6mと大規模なものであることが判明している。また平成21年度に実施した第4次調査(平成22年度報告書刊行予定)では、殿上山と呼ばれる城跡の頂部付近で、大規模な整地の痕跡と握立柱建物跡群が検出されている。



第2図 調査地点位置図



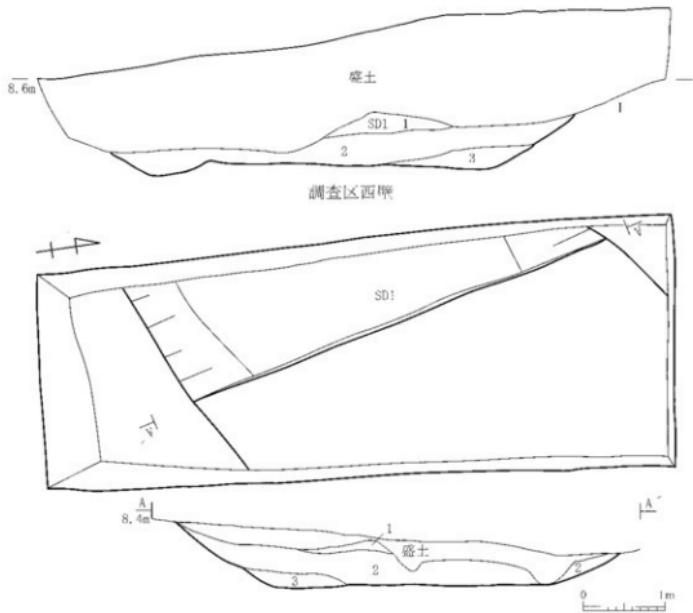
第3図 調査区配置図

4 基本層序

厚さ90cm～140cmの盛土直下で、暗褐色の凝灰岩を主とした石灰岩層が検出され、1層とした。基本層1層は、SD1溝跡の底面や肩の部分においてグライ化している。

5 発見遺構、出土遺物

I層上面で溝跡1条を検出した。



基本層	土色	土性	備考	
I	10YR3-4赤褐色	砂質シルト	粘土質を多少含む。	
測定名	測量点	土色	土性	備考
SD1	1	10YR3-4赤褐色	粘土	
	2	10YR2-1褐色	粘土	
	3	10YR5-1褐色	砂質シルト	赤褐色(10YR3-1)シルトブロックを含む。

第4図 I層上面検出遺構平面図・断面図

(1) I層上面検出遺構

1) 溝跡

SD1溝跡 濃度区中央部で検出した。方向は南西～北東、規模は上端幅5.5m、下端幅3.9m、深さ15～70cmである。

断面形はU字形で、堆積土は3層である。遺物は出土していない。

6 まとめ

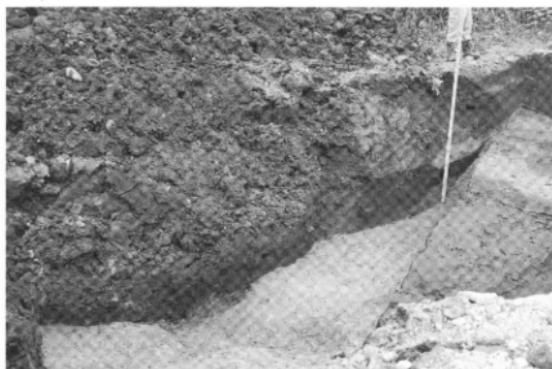
- ①調査区は、小鶴城跡の南側で、標高は8m～9m付近に位置し、堀跡と考えられる幅5.5mのSD1溝跡を検出した。遺物は出土せず、詳細な時期については不明である。
- ②これまでの調査で、小鶴城跡の堀跡は三重にめぐることが明らかにされており（第5図）、SD1溝跡は位置的にみて最も内側の堀跡の一一部と考えられる。

参考文献

- 仙台市教育委員会2002「1 小鶴城跡」「小鶴城跡ほか」仙台市文化財調査報告書第261集
仙台市教育委員会2009「Ⅲ 小鶴城跡第3次調査報告書」「山口遺跡他」仙台市文化財調査報告書第345集
仙台市史編さん委員会2006「小鶴城跡」「仙台市史 特別編7 城館」



第5図 小鶴城跡全体図
(『仙台市史 特別編7城館』P.46「小鶴城跡遺構配置図」に加筆修正)



1 調査区西壁断面（南京から）



2 SD 1溝跡検出全景（南から）



3 SD 1溝跡一部完掘状況（南から）

図版1 SD 1溝跡および調査区全景・断面

IV 大野田古墳群第19次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	大野田古墳群（宮城県遺跡番号01361）
調査地点	仙台市太白区大野田字官邸19の一部、20-1の一部、20-3の一部、20-5の一部、21の一部
調査期間	平成21年10月19日～22日
調査対象面積	115.93m ² （敷地面積333m ² ）
調査面積	41.25m ²
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	主査 平岡亮輔 主事 大久保弥生 文化財教諭 川本剛史

2 調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年10月7日付けで、申請者より提出された個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条（H21教文生第152-115号で回答）に基づき実施した。確認調査は、平成21年10月19に着手した。対象地内に南北3m×東西10mの調査区を設定した。I・II層を重機により除去し、III・IV・V層上面でそれぞれ遺構確認を行った。V層上面で古墳の周溝が検出されたため、申請者の了解を得て調査区西半の南側に3.5m×3.5m拡張し、引き続き本調査を実施することとなった。遺構掘り下げ後、断面、平面について写真・図面で記録した後、調査を終了した。調査終了後、重機により転圧をかけながら埋め戻しを行った。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

3 遺跡の位置と環境

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田に所在し、地下鉄富沢駅の東側に位置している。遺跡は、名取川下流域左岸の自然堤防上の微高地に立地し、その範囲は、東西約600m、南北約400mにおよび、標高は10~12mである。大野田古墳群は、個人住宅建築、共同住宅建築工事、市関連施設建築工事に伴う調査のほか、平成6年度以降「富沢駅周辺土地区画整理事業」の道路建設工事等に伴う調査が継続的に実施され、これまでに18次に及ぶ調査が行われている。大野田古墳群は、縄文時代および古墳時代から中世にかけての複合遺跡で、主体となる古墳は古墳時代中期から後期に属する。平成20年度まで、春日社古墳・鳥居塚古墳・王ノ塙古墳・五反田古墳のほか、大野田1~39号墳が調査され、検出された古墳総数は43基を数える。今回の調査は個人住宅建築に伴うもので、第19次にあたる。



第2図 調査地点位置図

4 基本層序

基本層は大別6層、細別9層確認した。I層は表土で、層厚は4~34cmである。色調により3層に分けられる。II層は層厚3~13cmの黒色粘土質シルト層である。III~V層は、古墳時代から古代の遺構が検出される層である。III層は層厚33cmで、色調により2層に分けられる。IIIa層は黄橙色シルト土層、IIIb層は明黄褐色シルト土層である。IV層は層厚2~16cmの暗褐色シルト土層である。V層はにぶい黄橙色砂質シルト土層である。古墳周溝の東側にのみ、IV層とV層の間に層厚10~16cmで黒褐色シルト土層のA層が確認される。A層については後述する。

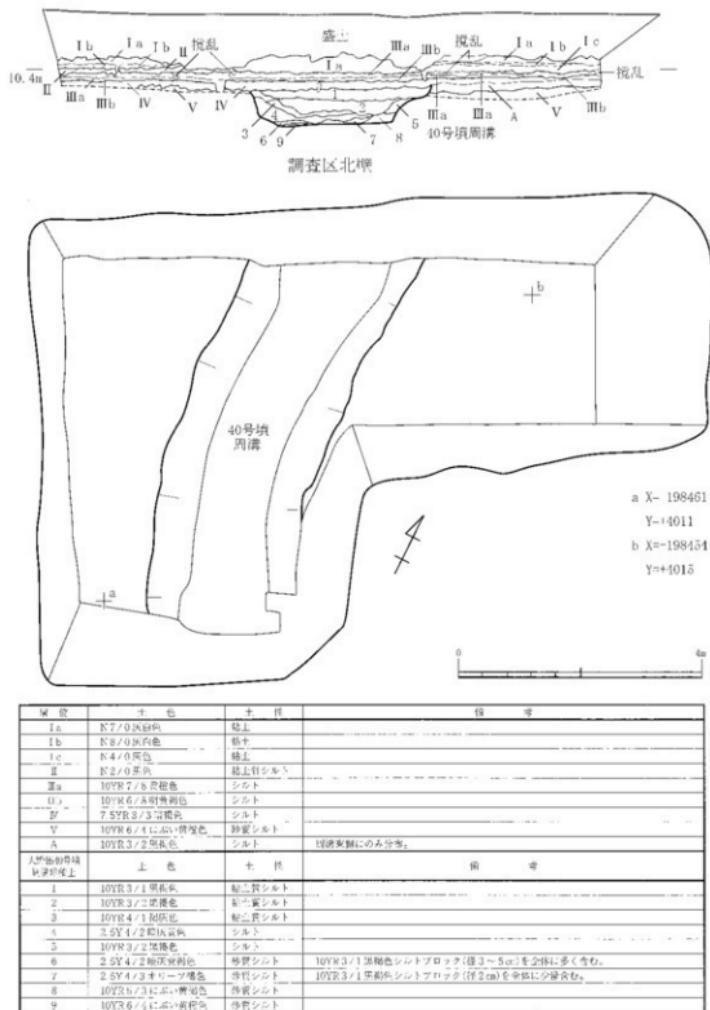
なお、調査地点には60~90cmの盛土がある。



第3図 調査区配置図

5 発見遺構と出土遺物

V層上面において、古墳の周溝を検出した。大野田古墳群では、春日社古墳・鳥居塚古墳・正ノ塚古墳・五反田古墳のほか、1-39号墳までの古墳が発見されている。今回の削査において、新たに1基の古墳が検出され、これを大野田40号墳とした。



第4図 V層上面検出濾幅平図図・断面図

(1) V層上面検出遺物

大野田40号墳 南北に伸びる周溝の一部を検出した。検出長は6.3mである。墳丘は、調査区東側にあったと推定されるが、削平されており残存していない。

周溝の上端幅は、2.3~2.5mである。下端幅は1.13~1.52mを計り、北側でやや広い。断面形は、逆台形である。底面は平坦で、外縁は急に立ち上がり、内縁は外縁よりもやや緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは、56~60cmである。堆積土は9層に細分される自然堆積層である。検出された周溝の形状から古墳を復元すると、周溝内縁径は約15.5m、外縁径約20mの円墳と推定される。

遺物は、周溝堆積土から石器3点、繩文土器221点、土師器片2点、円筒埴輪片81点が出土した。そのうち、円筒埴輪3点（第6図1~3）、繩文土器10点（第6図5~9、第7図1~4）、石器3点（第6図11~13）を図示した。第6図1は円形のスカシ孔上部の破片である。体部の外側調整はタテハケ、内側調整はヨコナデである。第6図2・3は、突底部である。2の突底部は上幅0.9cm、下幅は2cm、高さ0.7cmで、断面形は台形を呈し、やや下方に垂れている。3の突底部は上幅0.9cm、下幅1.8cm、高さ0.8cmで、断面形は台形を呈し、やや上方に向いている。繩文土器10点のうち、第6図5~9、第7図3は、後期中葉の宝ヶ峯式土器（斎藤報恩会1991）である。第6図5~9は、波状口縁をなす深鉢口縁部破片で、口縁直下に沈線が1条施文され、第5図5~8は11唇との間は刻目、第6図9はL R繩文で充填されている。第7図3は、平坦口縁をなす深鉢であり、外面上には磨消繩文によって「L」字状の文様などが施文されている。他の土器は、時期が明確でないが、宝ヶ峯式土器の可能性がある。第6図11、12は二次加工のある剥片で、第6図13は石器の未製品と考えられる。

(2) 遺構外出土遺物

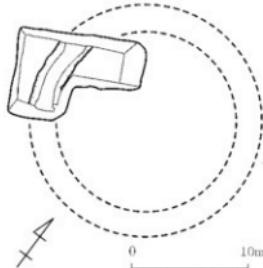
基本層IV層から繩文土器片4点、円筒埴輪片24点が出土している。そのうち、埴輪片1点を図示した。第6図4は、円筒埴輪の基部破片である。外側調整はタテハケ、内側調整はヨコナデである。基部の端部は、ユビオサエによって成形されている。また、基本層IV層から繩文土器片2点が出土した。第6図10は、深鉢の口縁部から胸部破片である。地文はL R繩文である。

6 まとめ

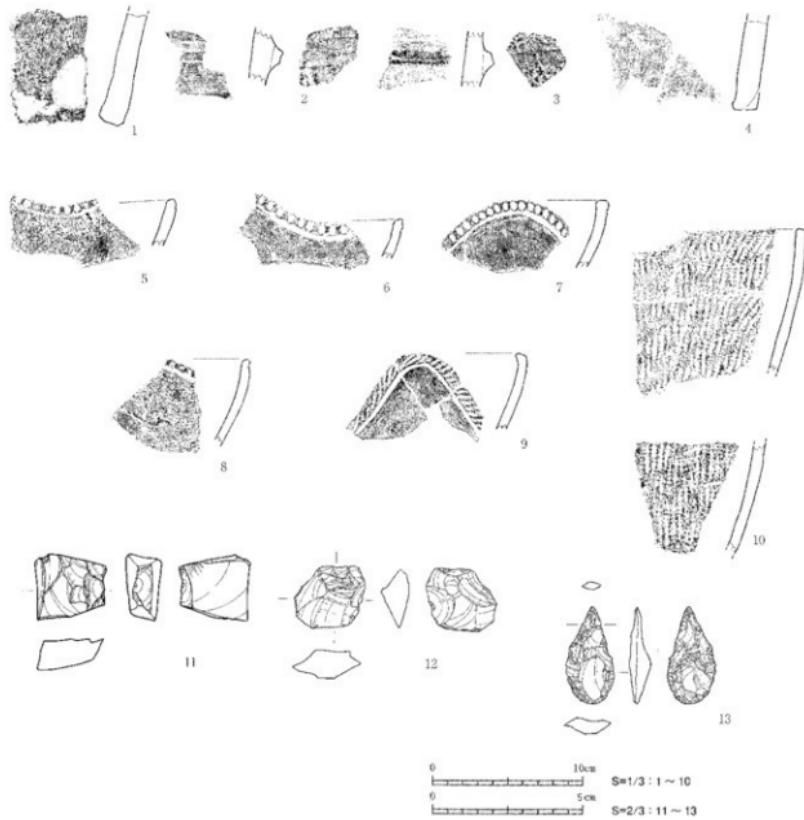
- ①大野田古墳群の古墳が新たに1基確認され、大野田40号墳とした。古墳群の古墳総数は44基になった。
- ②検出された周溝から古墳を復元すると、外縁径約20mの円墳と推定される。
- ③基本層A層は、周辺の調査における基本層とは層相が異なるものであり、大野田40号墳の墳丘にあたる部分にのみ分布することから、古墳築造前の表土、あるいは耕作土である可能性がある。A層の理解やその分布について、周辺の調査成果と合わせて、今後検討する必要がある。
- ④大野田40号墳周溝内堆積土および調査区基本層からは、繩文時代後期中葉の宝ヶ峯式土器が出土した。周辺では、王ノ塙遺跡や伊古田遺跡において同時期の遺物包含層や土坑群が検出されており、今後の遺構・遺物の展開に注意していく必要がある。

参考文献

- 仙台市教育委員会1995『伊古田遺跡・仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書』・仙台市文化財調査報告書第193集
 仙台市教育委員会2000『王ノ塙遺跡発掘調査報告書』・仙台市文化財調査報告書第249集
 斎藤報恩会1991『宝ヶ峯』

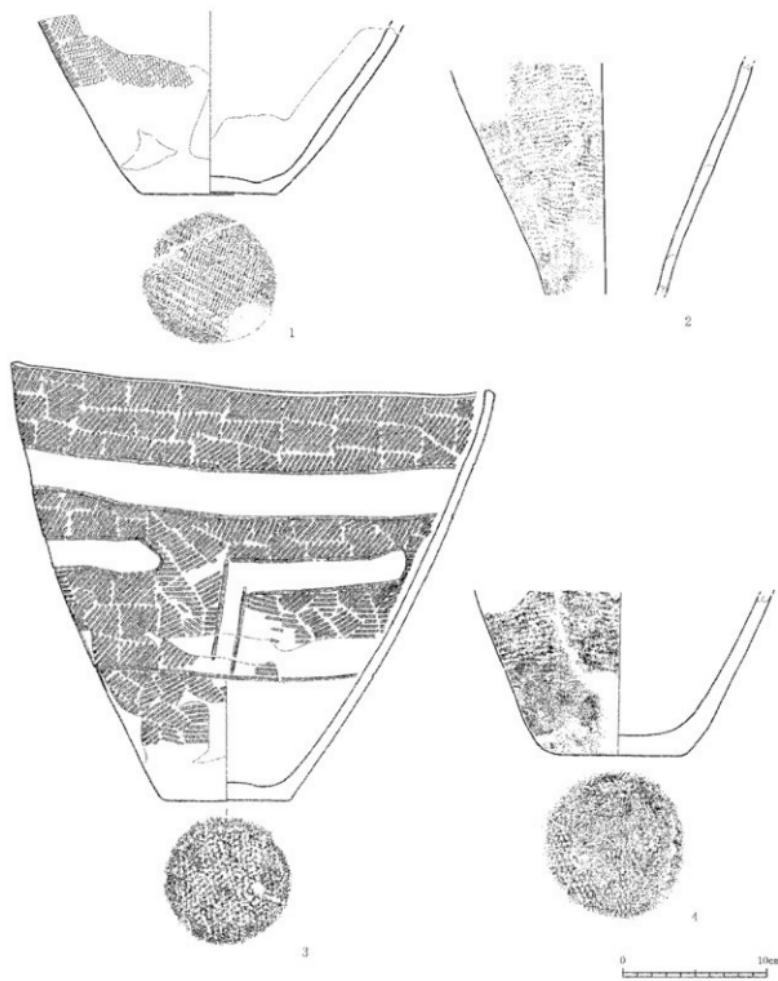


第5図 大野田40号墳周溝想定図



第6図 出土遺物(1)

回中 番号	石器 番号	遺物名 基本名	固三 層位	種別	形 種	法量(cm)			備 考	可否 回数
						標高 m	面厚 mm	底厚 mm		
6-1	S-3	4015地表(表)	7	塊状	U字型切削(透し型)	-	-	-	外周:タテハケ、内面:体部、底方向トゲ	2-1
6-2	S-2	4015地表(表)	1	塊状	片持造型(透かし型)	-	-	-	外周:突起、ミコナギ、底面:体部、底方向トゲ	2-2
6-3	S-2	4015地表(表)	1	塊状	U字型切削(透かし型)	-	-	-	外周:突起、ミコナギ、底面:体部、底方向トゲ	2-3
6-4	S-1	N		塊状	U字型切削(透かし型)	-	-	-	外周:タテハケ、内面:体部、底方向トゲ、透かし、ユビオナギ	2-4
6-5~6	A-6	4015地表(表)	ア	塊状土器	泥狀	-	-	-	口:直状、口縁:浅縁、側面:内凹上上がり、底部:小窪	2-5~6
6-9	A-7	4015地表(表)	ア	塊状土器	泥狀	-	-	-	口:浅縁、口縁:浅縁(LR)→浅縁、内面:ミガキ、側面:中突	2-9
6-10	A-1	N		成文土器	泥狀	-	-	-	内面:成文(LR)、口縁:ミガキ	2-10
6-11	K-1	4015地表(表)	1	石器	二次加工のある片片	2.4	2.55	1.2 重さ:8.0g		2-11
6-12	K-2	4015地表(表)	埋土上	石器	二次加工のある片片	2.6	2.9	1.2 重さ:7.1g		2-12
6-13	K-3	4015地表(表)	7	石器	心臓(米粒型)	4.3	2.1	0.8 重さ:5.5g		2-13



件名	形	寸法 mm	通称名	山上 層位	性質	器種	径(φ)			質	年 代	文獻 記載
							右高	左径	直徑			
2-1	A-3		切身埴頂面	埴頂土	陶土	深鉢	-	-	9.2	地文・繩文(?)地 地文・繩文(?)内	大正年 文	3-1
2-2	A-5		40号埴頂面	?	陶土	深鉢				地文・繩文(?)地 地文・繩文(?)内	文	3-2
2-3	A-2		9号埴頂面	埴頂土	陶土	深鉢	33	34	8.9	斜・輪文(?)地 地文・繩文(?)内	文	3-3
2-4	A-4		50号埴頂面	?	陶土	深鉢	-	-	8.7	地文・繩文(?)地 地文・繩文(?)内	文	3-4

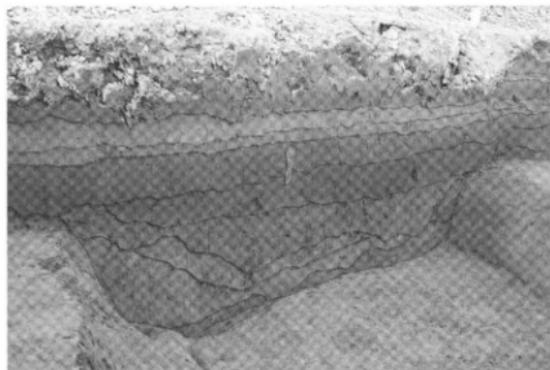
第7図 出土遺物(2)



1 大野田40号墳周溝検出状況(南から)

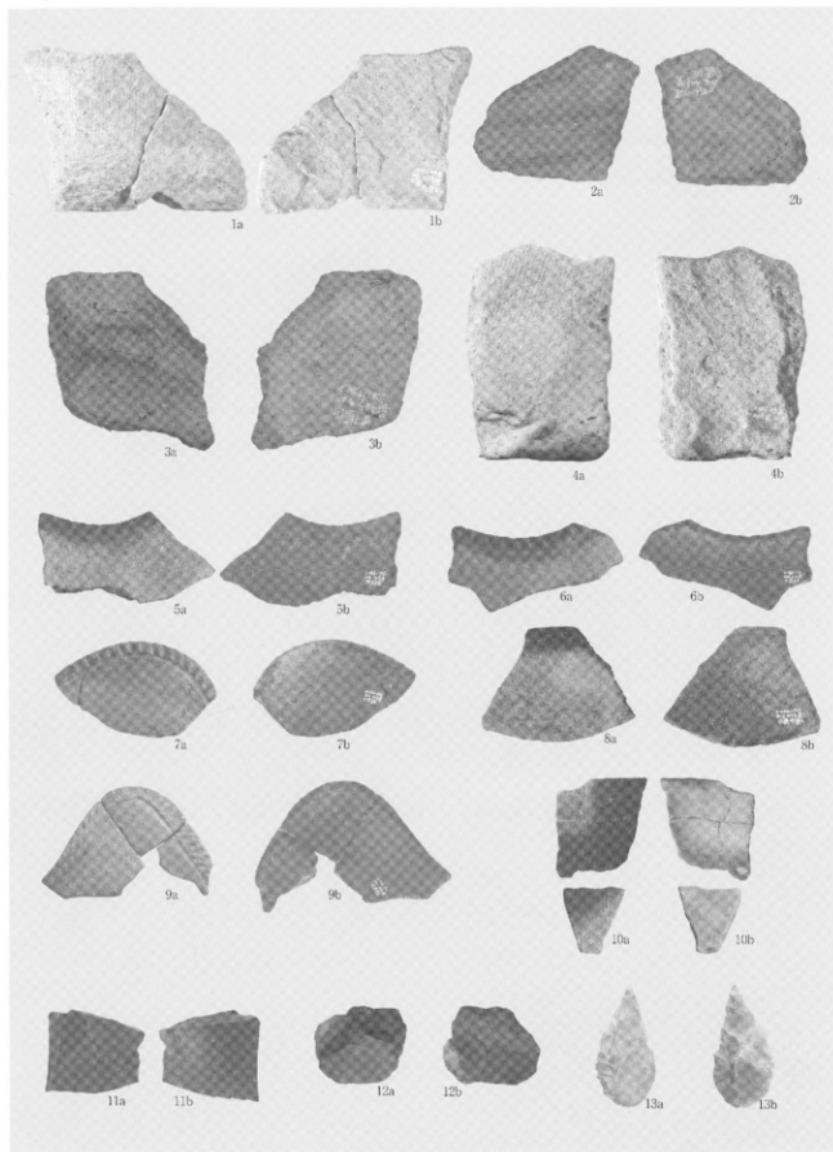


2 大野田40号墳周溝完掘状況(南から)

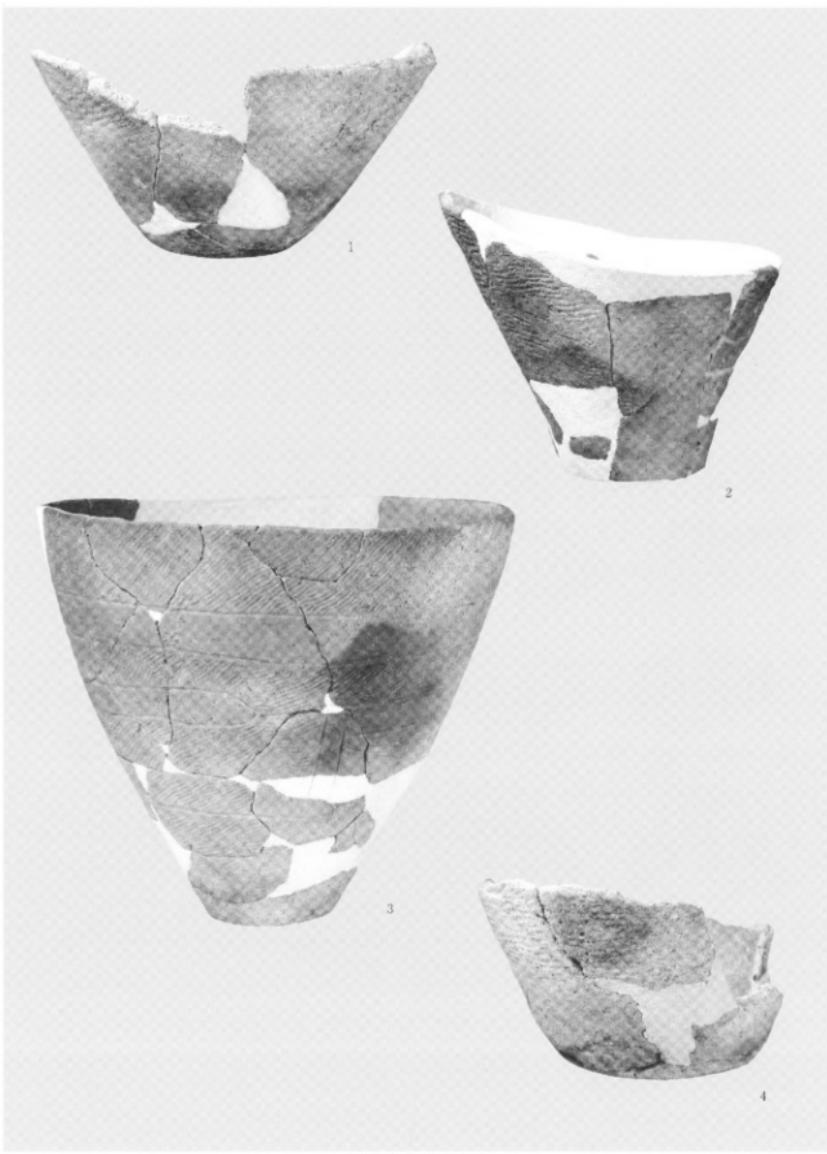


3 調査区北壁周溝内堆積土状況
(南西から)

図版1 大野田40号墳周溝・調査区断面



図版2 出土遺物(I)



圖版 3 出土遺物(?)

V 南小泉遺跡第63次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号01021）
調査地點	仙台市若林区南小泉二丁目106-7、106-9、106-2の一部
調査期間	平成21年10月26日～11月13日
調査対象面積	140.76m ² （敷地面積346.19m ² ）
調査面積	73.3m ²
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担当職員	文化財教諭 佐々木匠 文化財教諭 菊地貴博 主事 森田義史 臨時職員 千葉恭彦

2 調査に至る経過と調査方法



番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	南小泉遺跡	古墳、古窯	自然環境	弥生～近世	9	野村貝塚	貝塚	自然環境	古墳、奈良、平安
2	東足柄古墳	前方後円墳	自然環境	古墳	10	牛子吉原塚	貝塚	自然環境	弥生～平安
3	新竹城跡	円錐形、城館	自然環境	古墳、宇摩～近世	11	中村城跡	城跡	自然環境	中世
4	安藤園古跡	古墳、瓦窯、瓦合場	自然環境	鶴丸、古町、千葉～近世	12	仙台安藤多須塚	塚原	自然環境	西晋、平安
5	達保古墳	円墳	自然環境	古墳	13	半在家道塚	古墳	自然環境	平安
6	豪塙古墳	円墳	自然環境	古墳	14	半在家東御塚	通塚、河原、水田	自然環境、海岸湿地	弥生、古墳、平安～鎌倉
7	神塙古跡	礎跡、瓦窯	自然環境	奈良、平安	15	西田生遺跡	貝塚	自然環境	古墳、奈良、平安
8	浮洋古跡	散石場	自然環境	古墳、奈良、平安	16	浜森久利塚	塚原	自然環境	中世

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

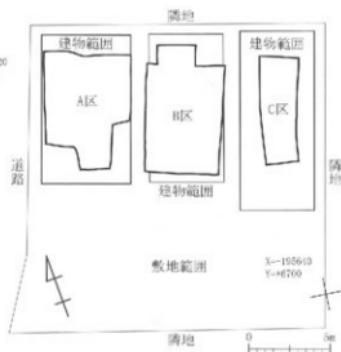


第2図 調査地点位置図

調査は、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」2件に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152-89号、H21教生文第152-90号で回答）に基づき、A、B区として調査を実施した。また、同時期、同敷地内において、建完住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152-88号）に基づき実施した調査結果も第63次調査C区として報告する。

確認調査は平成21年10月26日に着手した。調査区は、それぞれの住宅建築範囲内に3箇所設定した（A～C区）。重機により、盛土およびI、II、III層を除去後、IV層上面において遺構検出作業を行った。その結果、A、B区において調査区外に延びる堅穴住居跡が

検出されたことから、申請者と協議した結果、住居跡全体の規模等を明らかにするため建物建築範囲内に限り調査区を拡張し、本調査を実施することとした。遺構の掘り下げを行い、断面、平面について写真・図面で記録し、調査を終了した。調査終了後、重機により転圧をかけながら埋め戻しを行った。

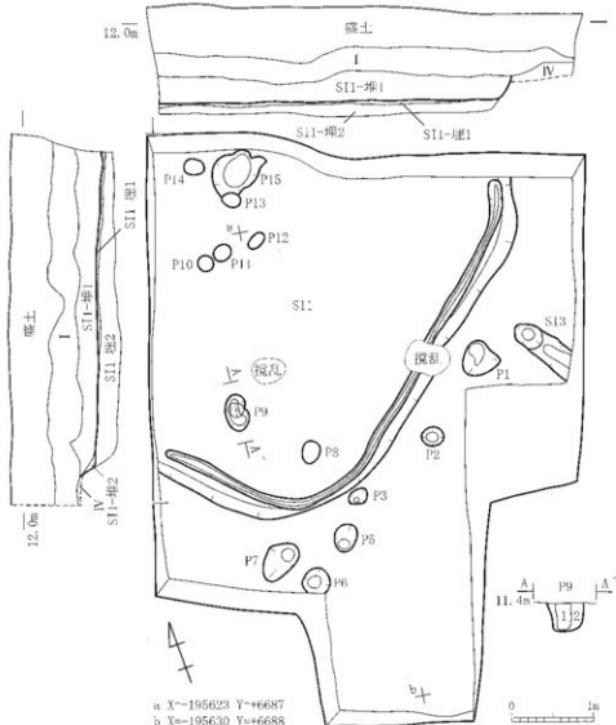


第3図 調査区配図

3 遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、仙台市の東部に位置し、名取川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡の範囲は東西約2km、南北約2kmと市内でも最大級の広がりを持っている。標高は、西側が約13m、東側が約7.5mである。

これまでの調査で縄文時代から近世の複合遺跡であることが明らかにされている。古墳時代前期には、当遺跡内の遠見塚古墳や、北東約1kmに位置する中在家南遺跡で方形周溝墓が編成されるが、当該期の集落は不明確で、塙釜式期の土器が各地点で確認される程度である。中期の南小泉式になると、遺構の検出数が急増する。これまでの調査の積み重ねで、60軒以上の堅穴住居跡が確認されており、衛点的な集落の形成が考えられる。



馬小型	上・地	二・性	指	考
Ia	10YR5/2 2底黄褐色	粘土質シルト	混合土。	
Ib	10YR2/2 2底灰褐色	粘土質シルト	施毛狀少量含む。	
II	10YR5/2に近い黄褐色	粘土質シルト	マンゴン粒少量含む。	
IV	10YR2/6 2底灰褐色	粘土質シルト	10YR6/3に近い黄褐色ブロック少部分。	

遺構	埠幅+	土	土性	測	考
P9	1	10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	粘灰土。	
	2	10YR3/3 黄褐色	粘土質シルト	10YR5/6 黄褐色ブロック多層含む。柱礎力。	

第4図 A区遺構平面図・断面図

後期になると、遺跡の西側に集落が拡大する。また、法領塚古墳が築造されている。奈良時代になると北西1kmほどの地点に陸奥国分寺・尼寺が建立される。遺跡内でも前代まで集落の認められなかった北西部に竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されるようになる。本調査地点は遺跡の西部にあり、北東に近接する平成20年度調査（第58次）では時期不明ながら溝跡や土坑が検出され、7世紀代の須恵器壺などが出土している。

4 基本層序

基本層は、4層確認した。I層は層厚約5cm～32cmで、現代の舞作土である。II層は黒褐色粘土質シルトで、部分的に検出される。III層はにぶい黄褐色粘土質シルトで、土器等などの遺物片を多く含む。IV層は黄褐色粘土質シルトで、達構検出面である。調査地点の盛土は、10cm～68cmである。

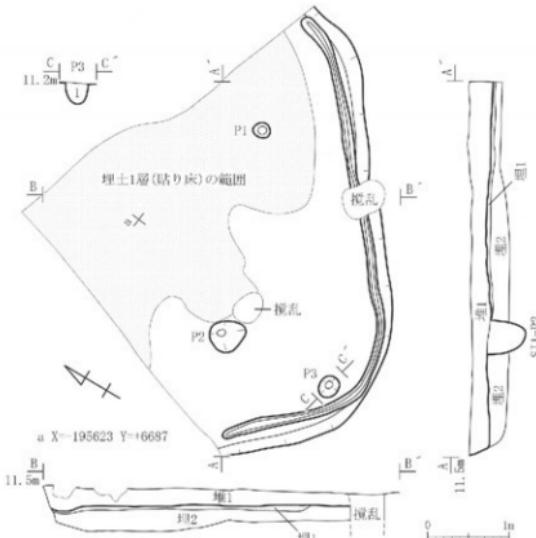
5 発見遺構と出土遺物

(1) IV層上面検出遺構

IV層上面で遺構を検出した。A区で竪穴住居跡1軒、ピット15基、B区で竪穴住居跡2軒、土坑2基、ピット7基、C区で土坑1基、ピット1基を検出した。

1) 竪穴住居跡

S I 1 竪穴住居跡 A区中央部で検出され、北と西は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形で、方向は南北軸でN-53°～Eである。P1～P8と新旧関係があり、いずれの達構よりも古い。規模は南北軸で4.20m以上・東西軸で3.75m以上である。検出面から床面までの深さは約20cmである。堆積土は2層に分かれ（堆積土1、2層）、すべて住居内堆積土である。床面では、住居跡中央部から東部の範囲で、貼り床と見られる硬化面（埋土1層）が確認された。カマドは検出されず、



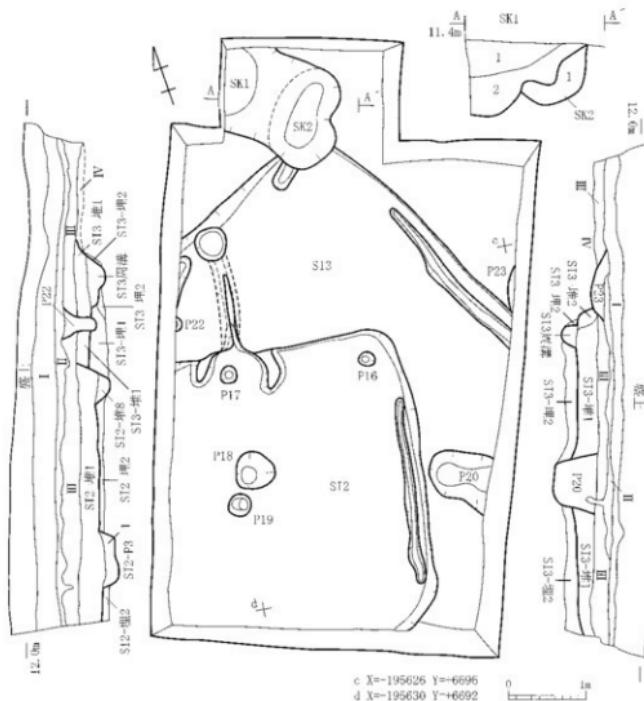
堆積土・地盤	層位	土 色	上 生	目 標
堆積土	1	IDYR5/2灰褐色	泥土質シルト	IDYR4/6 黄褐色少含む、柱孔内埋含土。
	2	IDYR4/4 黄褐色	泥土質シルト	IDYR5/6 黄褐色ブロック多く含む、柱孔内埋含土。
埋土	1	IDYR7/6灰褐色	シルト	IDYR4/3灰褐色ブロック多量、IDYR7/4灰褐色ブロック少含む、貼り床。
	2	IDYR5/4/2灰褐色	シルト	IDYR5/2灰褐色ブロック少含む、貼り床埋め土。

遺構名	層位	土 色	上 生	目 標
P 1	1	IDYR4/2灰褐色	泥土質シルト	IDYR4/6 黄褐色少含む、柱孔内埋含土。
P 2	1	IDYR3/1埋含土	泥土質シルト	IDYR5/6 黄褐色ブロック含む。
P 3	1	IDYR3/2灰褐色	泥土質シルト	IDYR5/6 黄褐色ブロック含む。
壁	1	IDYR4/2灰褐色	泥土質シルト	IDYR5/6 黄褐色ブロックをやや多く含む。

第5図 S I 1 竪穴住居跡平面図・断面図

ピットが3基（P1～P3）と周溝が検出された。P1は径約20cmの円形を呈し、深さは8cmである。P2は径約40cmの円形を呈し、深さは40cmである。P3は北半部のみの検出であるが、径約30cm円形、もしくは楕円形と推定され、深さは26cmである。堆積土はいずれも単層で、柱痕跡は確認されなかったが、規模や位置からP2は主柱穴である可能性がある。また、周溝は住居跡の東部、南部で検出され、周溝は上端幅10～16cm、下端幅3～10cm、深さ13cmで、堆積土は単層である。掘り方理土（埋土2層）にはぶい黄褐色シルトで、厚さは5～25cmである。掘り方底面は、中心部から周辺部にかけて緩やかに傾斜している。

遺物は床面から出土していない。しかし、堆積土1層から多くの土師器片が出土した。第10図1は内面に黒色処理を施さない関東系の土器である。他に図示した第10図2～4はいずれも在地の土師器であるが、郡山遺跡に類例が見出されるものである。細片のため図化はしていないが、堆積土中からロクロ土師器も出土している。



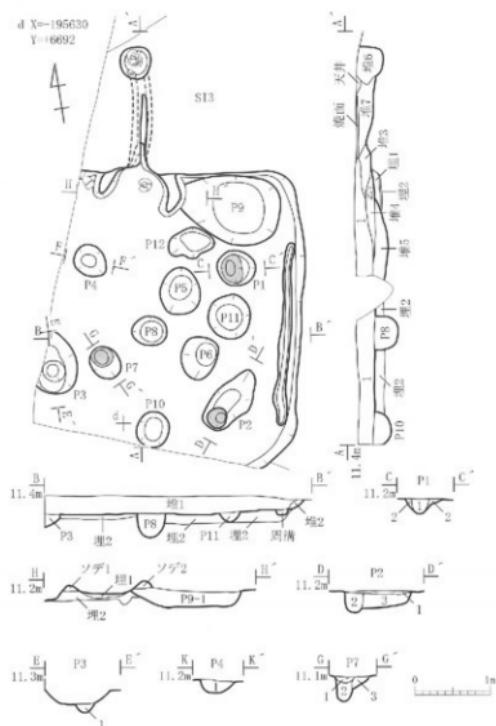
第6図 B区道横平面図・断面図

告白番	年月日	本 色	二 色	地 方	
				東 京	其 他
SK1	1 1984年1月発行	静電シルト	10YR 4/1 青色 ブラック多含。	10YR 3/1 銀色の ツヤ有り。	
	2 1984年3月発行	静電シルト	10YR 4/4 青色 ブラック多含。		
SK2	1 1984年2月発行	静電シルト	10YR 4/4 青色 ブラック多含。		
	2 1984年4月発行	静電シルト	10YR 4/4 青色 ブラック多含。		

S I 2 竪穴住居跡 B区中央に位置し、南と西は調査区外に延びている。S I 3 竪穴住居跡やP 16～P 19と新旧関係があり、S I 3 竪穴住居跡より新しく、P 16～P 19より古い。平面形は隅丸方形で、方向は南北軸でN-1°-Eである。規模は南北軸3.85m以上・東西軸3.40m以上を計る。検出面から床面までの深さは約20cmである。堆積土は8層に分かれ(堆積土1～8層)、1～3層が住居内堆積土、4、5層がカマド内堆積土、6層が煙道内堆積土、7層が煙出ビット内堆積土である。8層は、カマド左袖の西側に堆積した灰だまりである。床面ではカマドと柱穴3基(P 1～P 2、P 7)、ビット8基(P 3～P 6、P 8～P 11)、廻溝が検出された。ビットで柱跡が認められたものはP 1、P 2、P 7で、P 1は径約50cmの円形を呈し、深さは約20cmである。堆積土は2層である。P 2は長軸80cm・短軸約45cmの楕円形を呈し、深さは約30cmである。堆積土は3層である。P 7は長軸45cm・短軸38cmの楕円形を呈し、深さは約34cmである。堆積土は3層である。P 1、P 2は、規模や位置から主柱穴であると考えられる。その他のビットは、径約20～80cmの円形、または楕円形を呈し、堆積土は単層で、炭化物粒や焼土粒が多く含まれる。P

3は長軸80cm・短軸50cm以上の楕円形を呈し、深さは約20cmである。柱跡は確認できなかったが、形状から柱穴である可能性がある。堆積土中から多くの土師器片が出土している。P 9はカマドの東側に位置し、規模は長軸140cm・短軸90cm、深さ13cm、規模や位置から貯蔵穴と考えられる。遺物は、堆積土中からロクロ土師器窓(第10図14・15)や非ロクロ土師器台付鉢(第10図12)が出土した。廻溝は住居跡東側で検出された。上端幅10～20cm、下端幅5～8cm、深さ3cm、堆積土は単層である。カマドは北壁の東によりに設置されている。カマド右袖の上部が被熱を受け変色しているが、カマド内は全体的に被熱が弱い。袖は褐色の基本層IV層を主体とした土を用いて構築されている。なお、右袖はS I 2 P 9の堆積土の上に構築されており、また左袖の西側には灰だまり(堆積土8層)が確認されたことから、調査区内では検出できなかったがカマド西側に古いカマドが存在し、今回検出されたものは新しいカマドである可能性もある。煙道部は長さ約160cm、幅約30cmで、先端に径約40cm、深さ約35cmの煙出しビットがある。煙出しビット内で、非ロクロ土師器窓(第10図6)や須恵器窓(第10図10)が重なるように出土している。掘り方埋土(埋土2層)にはぶい黄褐色シルトで、厚さは3～15cmである。掘り方底面は平坦である。

遺物は、床面において、須恵器窓(第10図11)や須恵器窓が出土している。堆積土1層からは多くの土師器片、須恵器片が出土しているが、底部調整は糸切りとヘラキリが混在しており、ロクロ成形された土師器窓が主体を占める。



地盤上・地下	地質	土 色		土 質		備 考
		上	下	上	下	
堆積土	1	10YR 4/1 黄褐色	砂質シルト	10YR 5/6 ない黄褐色ブロック微含む。下部に10YR 3/1 黄褐色層が次に含む。土層内堆积土。		
	2	10YR 4/3 ない黄褐色	砂質シルト	10YR 5/6 黄褐色。		
	3	10YR 4/3 地火色	砂質シルト	10YR 5/6 黄褐色ブロック質、炭化物、堆土層微含む。任田古墳出土。		
	4	10YR 4/3 黄褐色	砂質シルト	炭化物、堆土層ブロック多く含む。なし。カマド内堆积土。		
	5	10YR 3/2 黄褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック質、炭化物、堆土層ブロック少含む。なし。カマド内堆积土。		
	6	10YR 4/3 黄褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック質、炭化物、堆土層ブロック少含む。なし。カマド内堆积土。		
	7	10YR 4/3 地火色	シルト	F層に炭化物層、堆土層有り。		
	8	10YR 4/3 地火色	砂	洗土。任田古墳多含む。なし。なし。カマド穴被覆土。		
埋土	1	10YR 4/4 ない黄褐色	シルト	10YR 3/2 黄褐色ブロック少含む。なし。出土未観。		
	2	10YR 5/4 ない黄褐色	シルト	10YR 3/2 黄褐色ブロック多く含む。堆土層方陣。		

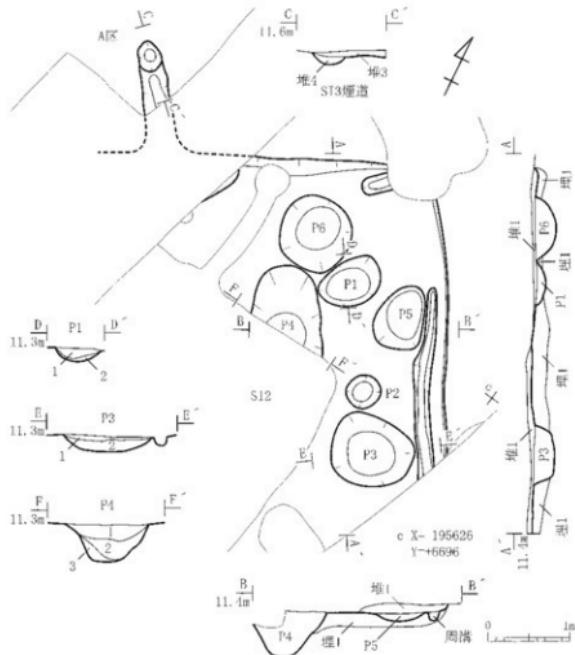
地質名	層位	土 色		土 質		備 考
		上	下	上	下	
P 1	1	10YR 3/1 黑褐色	砂	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック、炭化物微含無し。なりなし。柱面跡。		
	2	10YR 4/2 灰褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック少含む。下部に炭化物層微含む。任田古墳出土。		
P 2	1	10YR 5/3 ない黄褐色	砂	炭化物多く含む。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色微少含む。炭化物微含無し。柱面跡。		
P 3	3	10YR 4/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック多く含む。炭化物、堆土層少含む。柱面跡。二		
	1	10YR 4/2 地火色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック多量。炭化物、堆土層少含む。		
P 4	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック、炭化物、第二柱面跡含む。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック少含む。炭化物、第二柱面跡含む。		
P 5	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック少含む。炭化物、第二柱面跡含む。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 6	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 7	1	10YR 4/3 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
	2	10YR 4/3 ない黄褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 8	3	10YR 4/3 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 9	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 10	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。任田古墳出土。		
P 11	1	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	炭化物斑、任田古墳出土。		
	2	10YR 3/2 黑褐色	砂質シルト	炭化物斑、任田古墳出土。		
P 12	1	10YR 3/1 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色ブロック、炭化物、第一柱面跡含む。		
	2	10YR 4/2 黑褐色	砂質シルト	10YR 5/4 ない黄褐色少含む。柱面跡。		
カマドゾダ	1	10YR 4/3 ない黄褐色	砂	10YR 5/3 黑褐色少含む。なし。カマド内堆积土。		
	2	10YR 5/4 ない黄褐色	砂	10YR 5/5 黑褐色少含む。なし。カマド内堆积土。		

S I 2 穴穴住居跡土層附記表

堆積土 4 層からは、ほぼ完形のクロ土師器坏（第10図7）が1点出土している。埋土 2 層からも少量ながら土師器片が出土している。

S I 3 穴穴住居跡 B 区中央部で検出され、南は調査区外に延びている。S I 2 穴穴住居跡、SK I 土坑、P 20、P 22、P 23 と新旧関係がありいずれの遺構よりも古い。平面形は隅丸方形、もしくは方形と推定され、方向はW-40° - Nである。規模は南北軸3.50m以上・東西軸4.65m以上、検出面から床面までの深さは約10cmである。住居内堆積土は、2層に分かれ、主に暗褐色粘土質シルトで、住居壁際のみにぶい黄褐色シルトである。カマドは検出されなかつたが、A 区においてこの住居跡の煙道が検出されている。煙道部は検出長約75cm、幅約33cmで、先端は底面が深くなる。床面では、ピット6基（P 1 ~ P 6）と周溝が検出された。P 1 は長軸95cm・短軸75cmの楕円形を呈し、深さは16cmである。堆積土は2層である。P 2 は径40cmの円形を呈し、深さは約15cmである。堆積土は単層である。P 3 は長軸100cm・短軸87cmの楕円形を呈し、深さは約30cmである。堆積土は2層である。P 4 は S I 2 穴穴住居跡に南半部を切られているため正確な規模は不明だが、長軸97cm・短軸85cm以上の楕円形を呈し、深さは約50cmである。堆積土は3層である。P 5 は長軸78cm・短軸50cmの楕円形を呈し、深さは約10cmである。堆積土は単層である。P 6 は径90cmの円形を呈し、深さ24cmである。堆積土は単層である。いずれのピットにも柱痕跡は確認されなかつた。周溝は住居跡東側で検出された。上端幅20~26cm、下端幅5~12cm、深さ7cm、堆積土は単層である。掘り方埋土（埋土1、2層）は、灰黄褐色粘土質シルトやにぶい黄褐色砂質シルトで、厚さは5~24cmである。掘り方底面は、周辺部から中心部にかけて緩やかに傾斜している。

遺物は、床面において土製品の支脚が1点出土した。堆積土1層から非ロクロ土師器鉢（第11図1）、非ロクロ土師器高坏（第11図2）、埋土2層から南小泉式と見られる非ロクロ土師器高坏脚部（第11図3）が出土した。



層位	土色	土性	地質
1	10YR 3/3 棕褐色	稍干質シルト	107表5/6 黄褐色ブロック状、炭化物粒を含む。堆積内部層下。
2	10YR 5/3 ないし褐色	シルト	107表5/4 黄褐色上。
3	10YR 3/1 黄褐色	シルト	107表5/4 ないし黃褐色ブロック少量含む。堆積内部層上。
4	10YR 5/2 黄褐色	稍干質シルト	107表3/1 黄褐色ブロック微量含む。堆積内部層。
1	10YR 4/2 黄褐色	稍干質シルト	10YR 5/3 ないし黃褐色ブロック多量、炭化物粒、堆積内部層含む。
2	10YR 4/3 ないし褐色	細質シルト	107表3/3 黄褐色ブロックや多く含む。堆積内部層。
層位名	層位	土色	地質
P1	1	10YR 5/1 黄褐色	10YR 5/4 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒、堆積内部層含む。
	2	10YR 4/2 黄褐色	10YR 5/4 ないし黃褐色ブロック少量、炭化物粒、堆積内部層含む。
P2	1	10YR 4/1 黄褐色	10YR 5/5 ないし黃褐色ブロック少量、炭化物粒、堆積内部層含む。
P3	1	10YR 5/2 黄褐色	10YR 5/5 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒含む。
	2	10YR 3/2 棕褐色	10YR 5/4 ないし黃褐色ブロック少量、炭化物粒、堆積内部層含む。
P4	1	10YR 4/2 黄褐色	10YR 5/4 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒含む。堆積内部層。
	2	10YR 4/3 ないし褐色	10YR 5/4 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒含む。堆積内部層。
P5	1	10YR 4/2 黄褐色	10YR 5/5 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒、堆積内部層含む。
堆積	1	10YR 5/2 黄褐色	10YR 5/5 ないし黃褐色ブロック、炭化物粒含む。

第8図 S13 穴住居跡遺構平面図・断面図

2) 土坑

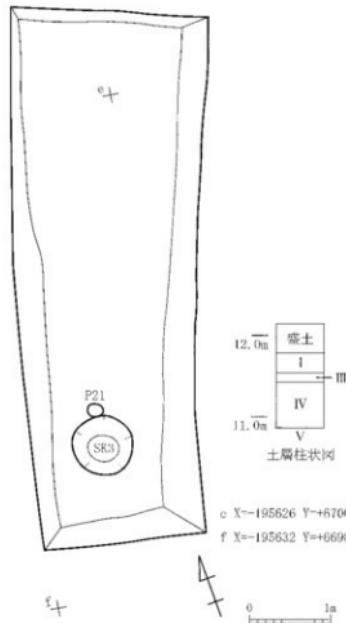
SK1 土坑 B区北部に位置し、北と西は測査以外に延びている。SI3 穴住居跡、SK2 土坑と重複し、いずれの遺構よりも新しい。平面形は不整形で、規模は長軸180cm以上・短軸120cm以上で、深さは100cmである。堆積土は2層で、人為的な堆積状況が見られる。堆積土2層から非クロロ土器部（第11図4）が出土している。詳細な時期、性格については不明である。

SK 2 土坑 B区北部に位置し、北と西は調査区外に延びている。SK 1 土坑と重複し、SK 1 土坑より古い。平面形、規模は不明であるが、深さは76cmである。堆積土は単層で、人為的な堆積状況が見られる。遺物は出土していない。詳細な時期、性格については不明である。

SK 3 土坑 C区南部で検出された。規模は径70cm、深さ約23cmで、平面形は円形である。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は堆積土中から土師器片が出上したが、詳細な時期、性格については不明である。

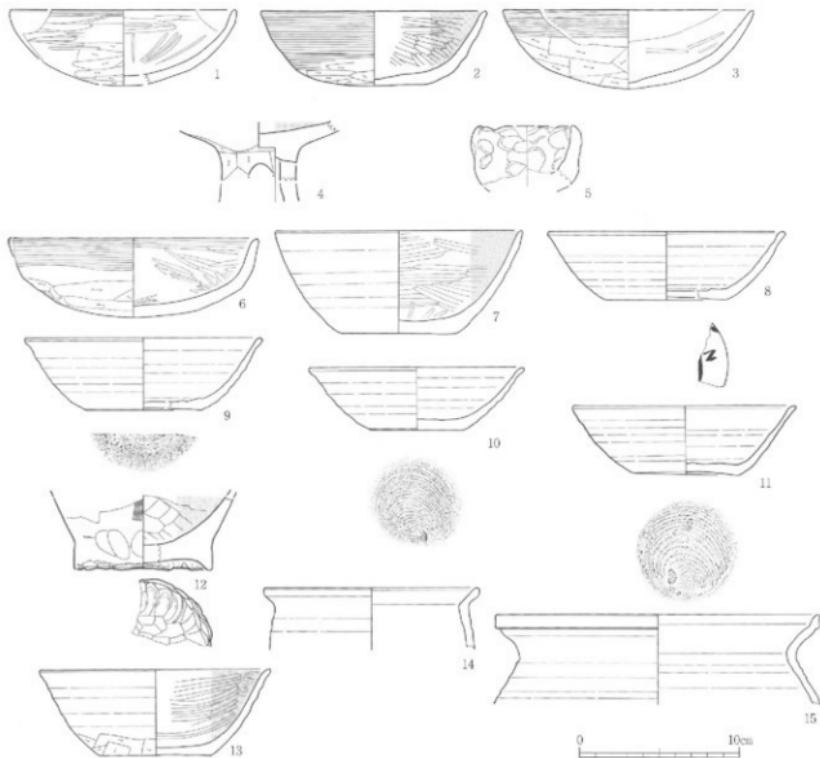
3) ピット

A区で15基、B区で7基、C区で1基、合計23基が検出された。ほとんどが堆積土は単層で、堆積土中から土師器片が出上したものもあるが、柱痕跡は確認されなかった。唯一柱痕跡が確認されたA区検出のP9は、長軸45cm、短軸27cmの橢円形を呈し、深さは35cmである。堆積土は2層で、遺物は出土しなかった。いずれのピットも、建物等となるような配置は見られず、詳細な性格については不明である。



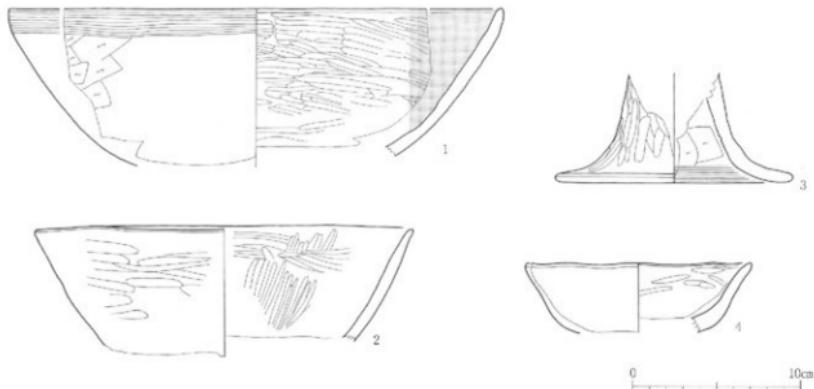
遺構名	層相土	土色	土種	備考
SK 3	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	10YP4/4B1色 ブロック少々含む。

第9図 C区遺構平面図



采集番号	記録番号	遺傳者	高さ 幅	種別	骨種	測量(cm)			写真圖 版
						翼肉	口徑	殻長	
10-1	C-1	SL1	浅1	赤クロコナメ	环	4.6	(14.0)	—	内面「ヒドリコナメ」→ヘラミガキ 外面「クロコナメ」→ヘラミガキ、体筋ヘラケズリ→ヘラミガキ 9-1
10-2	C-2	SL1	浅1	赤クロコナメ	环	4.6	14.0	—	外側「ヒドリコナメ」体筋ヘラケズリ、内面「ヘラミガキ」→黑色系統 9-2
10-3	C-3	SL1	浅1	赤クロコナメ	环	4.9	15.4	—	内面「ヘラミガキ」、外側「クロコナメ」、体筋ヘラケズリ 9-3
10-4	C-4	SL1	浅1	赤クロコナメ	环	(5.1)	—	—	内面「ヘラミガキ」→黑色系統、外側「ヘラケズリ」、海部「透かし」 9-4
10-5	C-6	SL2	浅4	赤クロコナメ	手標付	(5.4)	5.8	—	内側「透かし」 9-5
10-6	C-7	SL2	浅6	赤クロコナメ	环	5.0	15.6	—	内面「ヘラミガキ」、熟熱により黒色斑紋消炎、外側「クロコナメ」、体筋ヘラケズリ 9-6
D-1	SL2	浅1	ロクロコナメ	环	—	—	—	—	内面「ヘラミガキ」→白色系統 9-7
D-2	SL2	浅1	ロクロコナメ	环	—	—	—	—	内面「ヘラミガキ」→白色系統 9-8
D-3	SL2	浅4	ロクロコナメ	环	6.6	15.4	7.4	—	内面「ヘラミガキ」→黑色系統、外側「クロコナメ」、体筋ヘラケズリ 9-9
D-4	SL2	浅6	ロクロコナメ	环	4.0	—	6.4	—	内面「ヘラミガキ」→黑色系統、外側「ヘラケズリ」 9-10
D-5	SL2	浅7	ロクロコナメ	環	—	—	—	—	内面「テラミガキ」→黑色系統、外側「ヘラケズリ」 9-11
D-8	SL2	浅1	帆背螺	环	4.3	(14.5)	(7.6)	—	内側面「クロコナメ」、底部「透かし」 9-12
E-4	SL2	浅1	帆背螺	环	4.5	(14.7)	(7.2)	—	内側面「クロコナメ」、底部「透かし」 9-13
E-5	SL2	浅6	帆背螺	环	4.0	13.0	5.8	—	内側面「クロコナメ」、底部「透かし」 9-14
E-6	SL2	深1	帆背螺	环	4.2	13.6	6.4	—	内側面「クロコナメ」、底部「透かし」 9-15
R-7	SL2	深1	帆背螺	環	—	—	—	—	—
10-12	C-8	SL2 P9	1	赤クロコナメ	外付外	(4.8)	—	8.8	内面「テラミガキ」→黑色系統、外側「透かし」、外側「ロクロコナメ」、底部「透かし」 9-20
10-13	D-6	SL2 P9	1	赤クロコナメ	环	5.3	14.4	7.0	内面「ヘラミガキ」→黑色系統、外側「ロクロコナメ」、底部「透かし」 9-17
10-14	D-7	SL2 P9	1	赤クロコナメ	环	(3.8)	(12.8)	—	内側面「透かし」 9-18
10-15	D-8	SL2 P9	1	赤クロコナメ	环	(5.0)	20.2	—	外側面「クロコナメ」 9-19

第10図 S I I - S I I 2 穴穴住居出土満物



遺物番号	登録番号	遺物名	出土 基盤	性質	直径	口径	底径	目 名	写真 位置
II-1	C-9	S I 3	堆1	牙口鉢・土師器	鉢	(8.7)	(28.8)	内面:ヘラミガキ・朱色整理、外側:口縁 ヨコナギ・朱墨、ヘラケズリ	30-1
II-2	C-10	S I 3	堆1	牙口鉢・土師器	高杯	(7.6)	22.0	—	内面:ヘラミガキ、外側:口縁 ヘラミガキ 体部 ヨコナギ・ヘラミガキ ヘラケズリ
II-3	C-11	S I 3	堆2	牙口鉢・土師器	高杯	(6.9)	—	14.0	内面:ヘラケズリ、ヨコナギ・外側:ヘラミガキ
C-12	S I 3	堆1	土師器	大鉢	—	—	—	—	30-2
C-13	S I 3	堆1	土師器	支脚	—	—	—	—	30-4
II-4	C-14	S K 1	2	牙口鉢・土師器	鉢	4.0	13.0	—	内面:ヘラミガキ、外側:マメツ
E-1	玉軸	麻糸各	寺	—	—	—	—	—	30-7
E-2	玉軸	麻糸各	寺	—	—	—	—	—	30-8

第11図 S I 3 竪穴住居跡ほか出土遺物

6 まとめ

- ①今回の調査では、竪穴住居跡3軒、土坑3基、ピット23基が検出された。
- ②A区で検出されたS I 1 竪穴住居跡の堆積土中からは、古墳時代後期～平安時代の土師器が出土している。時期を決定する遺物の出土ではなく、詳細な時期は不明である。
- ③B区で検出されたS I 2 竪穴住居跡は、床面出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。
- ④B区で検出されたS I 3 竪穴住居跡は、堆積土からは古墳時代中期の遺物が出土しているが、床面における遺物の出土が少なく、詳細な時期は不明である。
- ⑤B区で検出されたS K 1、S K 2 土坑は人為的な堆積状況が見られるが、性格は不明である。堆積土1層から非クロロ土師器が出土したが、詳細な時期は不明である。
- ⑥C区で検出されたS K 3 土坑からは古墳時代の土師器が出土したが、性格は不明である。
- ⑦それぞれの調査区で検出されたピットは、P9のみ柱痕跡が確認されたが、いずれも建物跡を示すような有意な配置は見られない。

参考文献

仙台市教育委員会2005『郡山遺跡発掘調査報告書－総括編(1)－』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会2009『Ⅱ南小泉遺跡第58次発掘調査報告書』『仙台平野の遺跡X IX

－平成20年度発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第346集



1 A区SⅠ1竪穴住居跡検出状況
(南から)

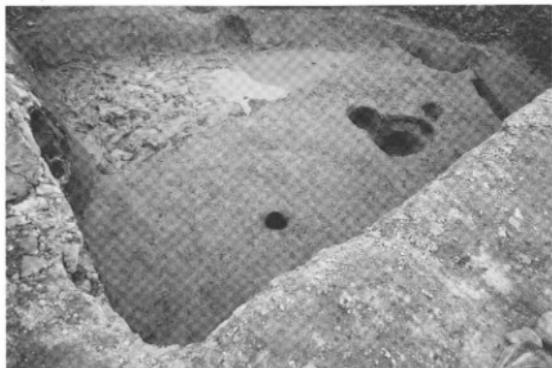


2 A区SⅠ1竪穴住居跡
床面遺構完掘状況 (北から)



3 A区拡張後SⅠ1竪穴住居跡
検出状況 (南から)

図版1 A区SⅠ1竪穴住居跡



1 A区拡張区S 1 1竪穴住居跡
床面溝状完掘状況（北西から）



2 A区S 1 1竪穴住居跡
完掘状況（南東から）



3 A区北壁断面（東から）

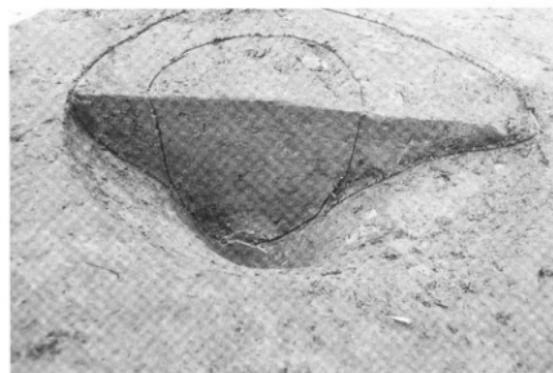
図版2 A区S 1 1竪穴住居跡・調査区断面



1 B区IV層上面遺構検出状況(南から)

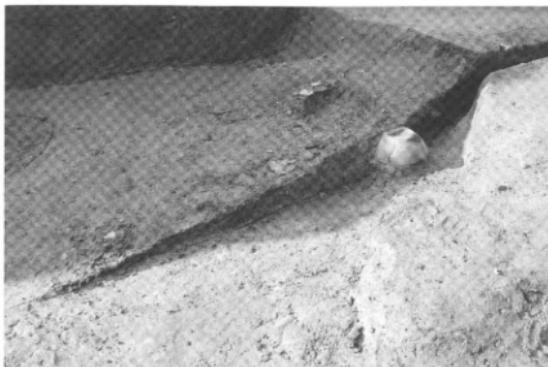


2 B区S I 2整穴住居跡
床面遺構検出状況（南から）

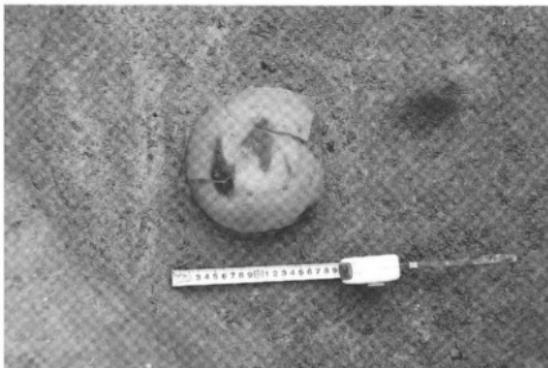


3 B区S I 2整穴住居跡
P 1断面（南から）

図版3 B区S I 2整穴住居跡(1)



1 B区S I 2 空穴住居跡
カマド内遺物出土状況（南東から）

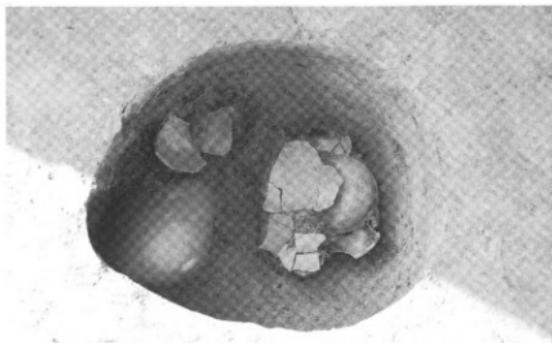


2 B区S I 2 空穴住居跡
カマド内遺物出土状況（北から）



3 B区S I 2 空穴住居跡
床面遺構元器状況（南から）

図版4 B区S I 2 空穴住居跡(?)



1 B区S I 2 穹穴住居跡
煙出ピット内遺物出土状況(東から)



2 B区S I 2 穹穴住居跡
カマド袖断面(南から)

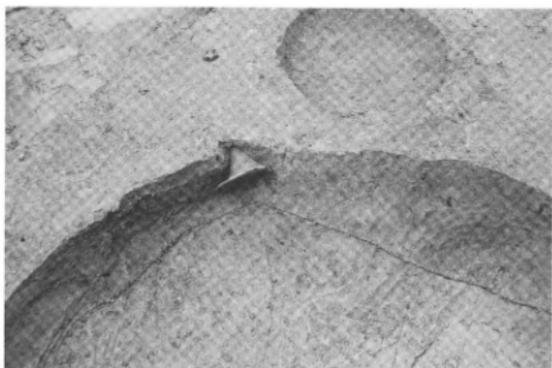


3 B区S I 2 穹穴住居跡
完掘状況(南から)

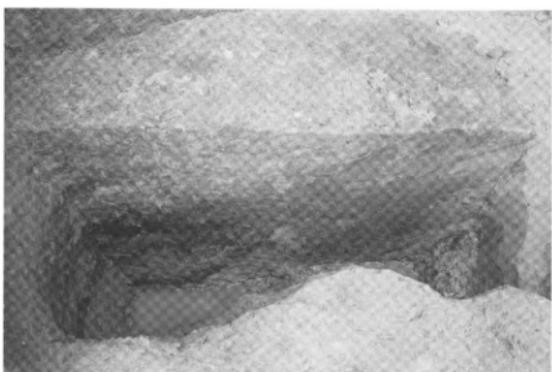
図版5 B区S I 2 穹穴住居跡(3)



1 B区S1-3整穴住居跡
床面遺構元型状況（南東から）



2 B区S1-3整穴住居跡
遺物出土状況（東から）



3 B区SK1、SK2土坑元型状況
(南から)

図版6 B区S1-3整穴住居跡・SK1、SK2土坑



1 B区IV層上面遺構完掘全景
(南から)



2 B区西壁断面 (東から)

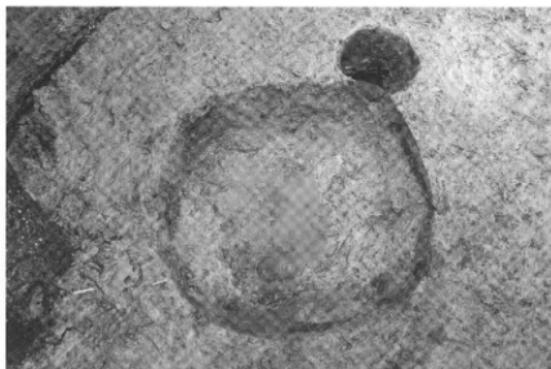


3 B区東壁断面 (西から)

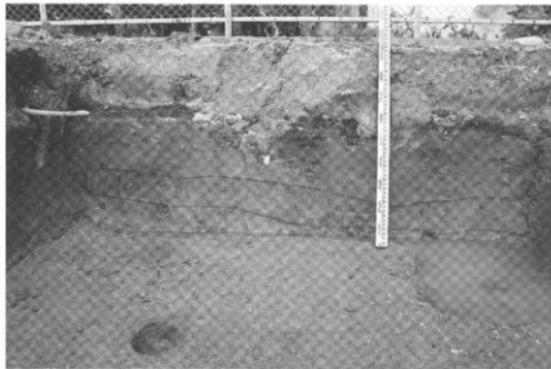
図版7 B区完掘状況・調査区断面



1 C区IV層上面遺構完掘全景
(南から)

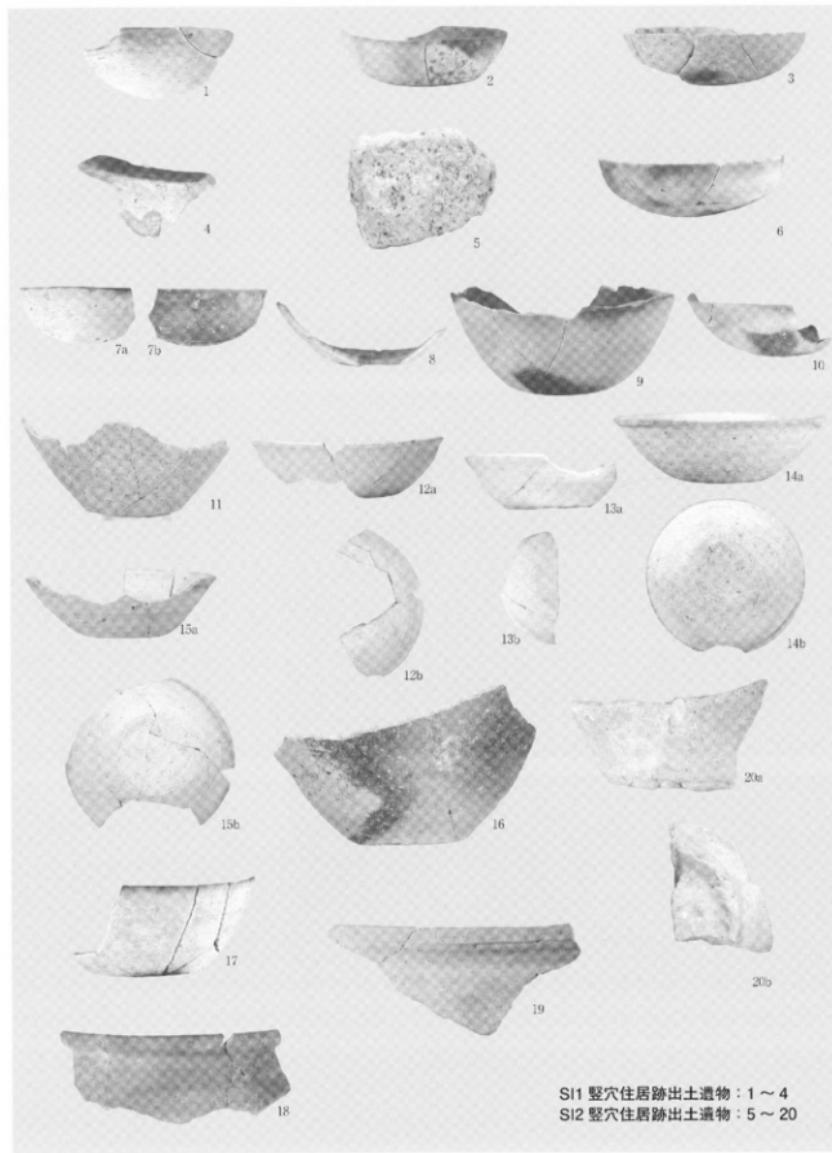


2 C区SK 3完掘状況 (南東から)



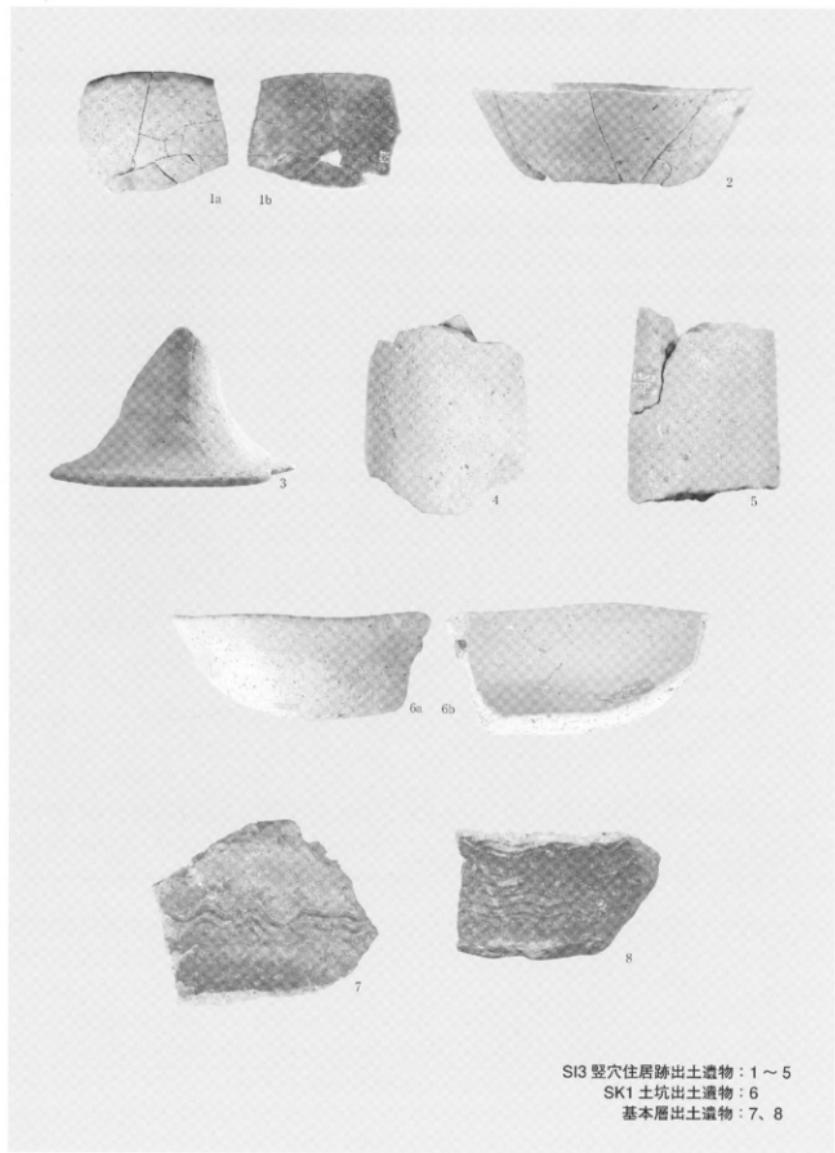
3 C区北壁断面 (南から)

図版8 C区完掘状況・SK 3土坑・調査区断面



S11 坪穴住居跡出土遺物：1～4
S12 坪穴住居跡出土遺物：5～20

圖版9 出土遺物(1)



圖版10 出土遺物(2)

VI 燕沢遺跡第13次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	燕沢遺跡（宮城県遺跡番号01001）
調査地点	仙台市宮城野区燕沢東三丁目532-1
調査期間	平成21年11月16日～19日
調査対象面積	122.6m ² （建築部分83m ² 車庫部分39.6m ² ）
調査面積	21m ²
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
調査職員	文化財教諭 佐々木匠 文化財教諭 菊地貴博

2 調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年9月7日付けで地権者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財の届出について」



番号	遺跡名	種別	性質	時代	番号	遺跡名	種別	性質	時代
1	西山遺跡	散在地、古墳、寺院	古墳	鷹文～平安	10	安養寺北水場前遺跡	古跡	丘陵斜面	奈良、平安
2	古川遺跡	散在地	古墳	平安	11	安養寺園地三塚	古跡	丘陵斜面	平安
3	小山遺跡	散在地	自然地形	平安	12	安養寺下坂遺跡	古跡	丘陵斜面	奈良、平安
4	小島遺跡	散在地	土壘	平安	13	小田原川左岸遺跡	古跡	丘陵斜面	奈良
5	西山・小山の穴石群	块状石	丘陵斜面	古墳	14	羽根社跡	古跡	丘陵斜面	奈良、平安
6	西山・寺塚穴石群	块状石	丘陵斜面	古墳	15	羽根社古墳群	散在地	丘陵	奈良、平安
7	興治公園遺跡	古跡	丘陵斜面	古墳、奈良	16	二の森遺跡	古跡	丘陵斜面	平安
8	大通寺遺跡	古跡	丘陵斜面	古墳、奈良	17	二の森遺跡	散在地	丘陵斜面	奈良
9	安養寺千葉院三塚	古跡	丘陵斜面	奈良、平安	18	外長老山遺跡	古跡	丘陵斜面	奈良、平安、近世

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

に対して、文化財保護法第93条（H21教生文第152-95号で回答）に基づき実施した。調査は平成21年11月16日に着手した。

調査は、掘削深度が深い車庫部分でのみ行うこととし、調査区は南北2m×東西10.5mのトレンチを設定した。重機によりI・II層を掘削し、III層上面において人力で精査を行って遺構を検出した。遺構の振り下げを行い、断面、平面について写真・図面で記録した後、調査を終了した。

3 遺跡の位置と環境

燕沢遺跡は、仙台市北東部のJR東仙台駅の北東約2kmに位置する。遺跡は、七北田川と広瀬川の間に形成されている七北田丘陵の東端にある台原・小田原丘陵の最東端部、七北田川右岸の標高20~30mに立地している。沖積平野との比高差は約10~20mである。

本遺跡は、これまでに12次に及ぶ調査が実施されており、縄文時代～中世の複合遺跡であることが明らかにされている。古代では、多賀城創建以前から創建期頃の瓦の出土が知られている。また、遺跡南東部では「僧坊」と推定される建物や溝跡が検出され、その周辺の建物群とともに寺院の伽藍を形成していたと推定されている。遺物は、平安時代の瓦や墨書き器、土師器片も多く出土している。

4 基本層序

基本層は、I～Ⅲの大別3層から成り、II層はa・bに細別される。盛土は、北側の薄い部分で20cmあり、南側ほど徐々に厚くなっている。I・II層は旧表土層である。II層は黒褐色のシルト質粘土で、風化した礫の小片・炭化物を含む。Ⅲ層は黄褐色の砂疊層で遺構確認面である。

5 発見遺構と出土遺物

(1) Ⅲ層上面検出遺構

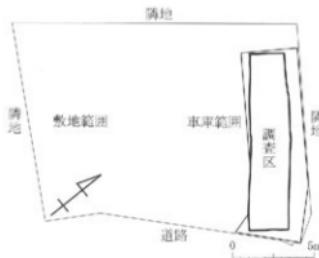
Ⅲ層上面でピット2基、性格不明遺構1基が検出された。

1) 性格不明遺構

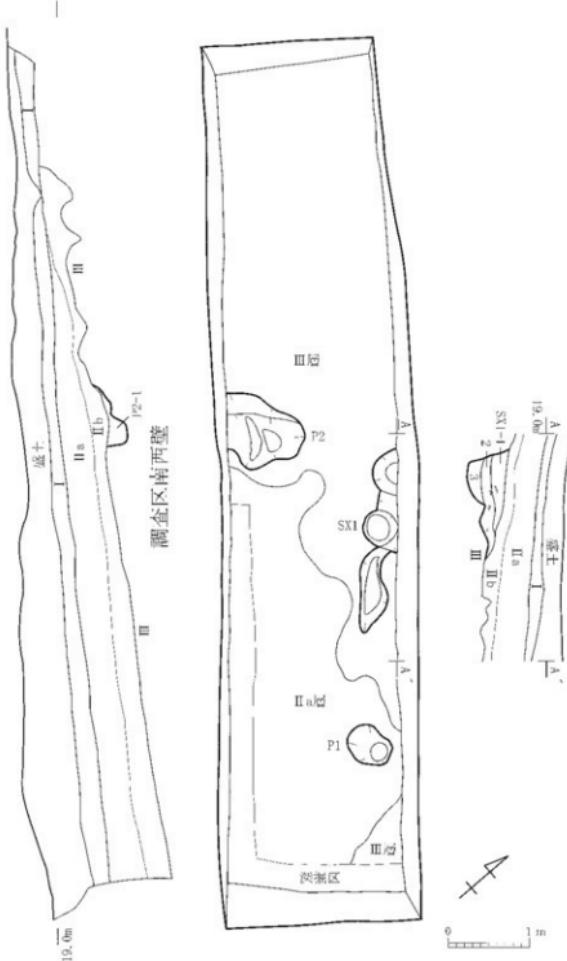
S×1性格不明遺構 調査区東部に位置し、東側は調査区域外に延びている。平面形は不整形で、底面は凹凸がある。規模は検出範囲で東西1.2m、南北54cm、深さは最深部で31cmである。遺物は、1層から平瓦2点、丸瓦1点、瓦片2点が出土した。そのうち第5圖6の平瓦は、凹面には明瞭ではないが模様痕が見られ、布目がケズリ調整によって消されている。凸面は平行叩き目がナデ調整により磨り消されている。この平瓦は、燕沢遺跡出土瓦分類の平瓦2類（仙台市教委1984）にあたり、多賀城創建期か、それ以前の年代が想定されている（仙台市教委1991）。瓦以外の遺物



第2図 調査地点位置図



第3図 調査区配置図



岩相名	二 色	二 性	構 造
I	10YR 4/2 單葉褐色	板状シート	...
IIa	10YR 3/1 黄褐色	シート背盤上	...
IIb	10YR 3/2 褐褐色	シート剥離带	壁面に流れあり。
III	10YR 5/8 黄褐色	シート貫入	黄褐色(10YR 3/2)シートブロック少量含む、微量含む。

岩相名	形態上	二 色	二 性	構 造
S X 1	1	10YR 3/1 黄褐色	板状シート	に赤い黄褐色(10YR 5/4)シートブロック少量含む、微量含む。
	2	10YR 3/2 褐褐色	板状シート	灰土塊、炭化物含む、土壤部分含む。
	3	10YR 5/8 黄褐色	板状シート	に赤い黄褐色(10YR 5/4)シートブロック少量含む、微量含む。

第4図 III層上面突出構造平面図・断面図

としては、底部に回転糸切りの痕跡が残る須恵器坏、ロクロ土師器の坏（第5図2）などが出土している。

2) ピット

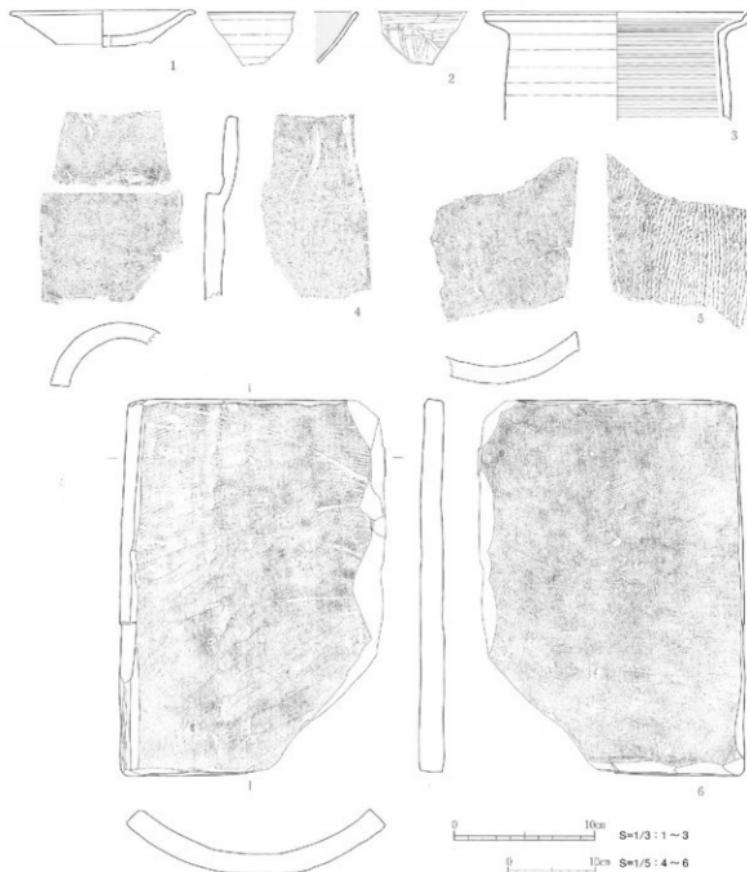
2基のピットが検出された。P1の平面形は直径50cmの橙円形で、深さは32cmである。堆積土は単層で、柱痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。P2の平面形は不整形で径1m程である。底面には凹凸があり、深さは最深部で35cmである。遺物は出土していない。倒木棟の可能性がある。

6 まとめ

- ①今回調査地点は、燕沢遺跡の南西端に位置し、標高は約19mである。遺構は、Ⅲ層上面で性格不明遺構1基とピット2基が検出された。
- ②SX1性格不明遺構から出土した平瓦（第5図6）は、桶巻き作りで、凹面→凸面の順に調整されており、多賀城IA類（宮城県教委・多賀城跡研究所1982）の製作工程が考えられる。
- ③周辺には、僧坊と推定される掘立柱建物跡を含む数棟の建物群が発見されるなど、平安時代の寺院の存在が指摘されており、今回の出土遺物（第5図4、5）は、この寺院と関連する可能性が考えられる。

参考文献

- 宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所1982『多賀城跡政府跡 本文編』
 仙台市教育委員会1984『燕沢遺跡』仙台市文化財調査報告書第62集
 仙台市教育委員会1991『燕沢遺跡 第4・5・6次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第154集

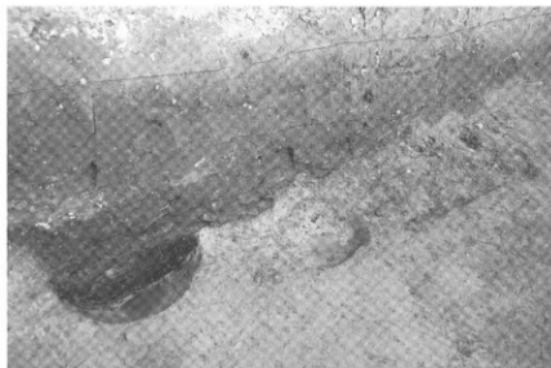


器物番号	登錄番号	遺集名	高さ 幅	断面	種類	古縁	法量	備考	写真版	
5-1	D-1	B			コクロ土縁部	直口弧	(2.6) (12.2)	内外面:セラフ形縁	3-1	
5-2	D-2	SX1	1	コクロ土縁部	弧	(3.7)	—	内外面:コクロ形縁、内面:ミガキ→黒色光澤	3-2	
5-3	D-4	SX1	1	コクロ土縁部	直	(7.8) (19.2)	—	内外面:コクロ形縁、内面:ヘツナチ	3-3	
D-3	SX1	1	コクロ土縁部	弧	—	—	内面:コクロ形縁	3-4		
C-1	SX1	1	土縁部	直	—	—	内面:ミガキ→黒色光澤	3-5		
C-2	SX1	1	コクロ土縁部	直	—	—	内外面:コクロ形縁	3-6		
E-1	SX1	1	直想溝	直	—	—	底部:ハサ突り	3-7		
5-4	F-1	SX1	1	瓦	瓦	(22.20) (36.17)	2.3	内面:石目模、凸面:丸平き→ナギによるすり削し、有段	3-8	
5-5	G-2	SX1	1	瓦	平瓦	—	—	内面:石目模・落ナギ、凸面:調明瓦	3-9	
5-6	G-1	SX1	1	瓦	平瓦	44.5	31.2	3.0	内面:(横牛軸)→落ナギ重・ケズリ、凸面:平行平き→ナギ	3-10
G-3	SX1	1	瓦	等平瓦	—	—	—	内面:石目模、凸面:ナギ	3-11	

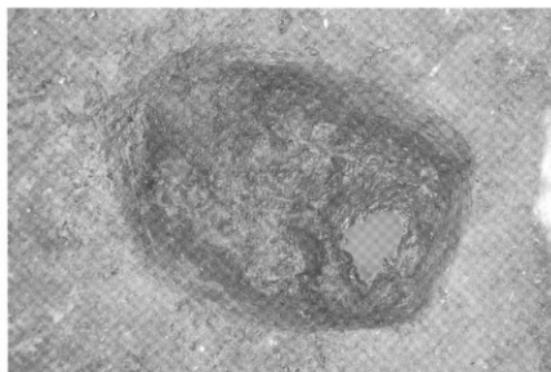
第5図 出土遺物



1 III層上面遺構完掘全景（西から）



2 SX1性格不明遺構完掘状況
(南から)



3 P1完掘状況（東から）

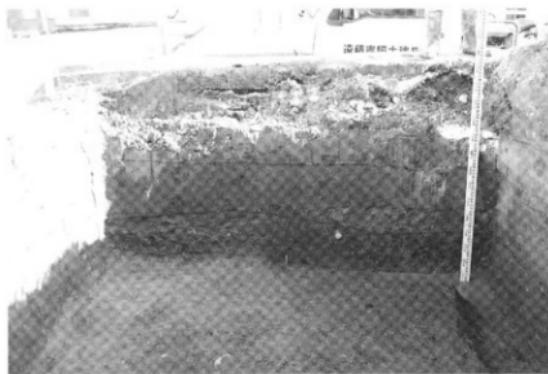
図版1 III層上面検出遺構



1 P 2 完掘状況（北から）

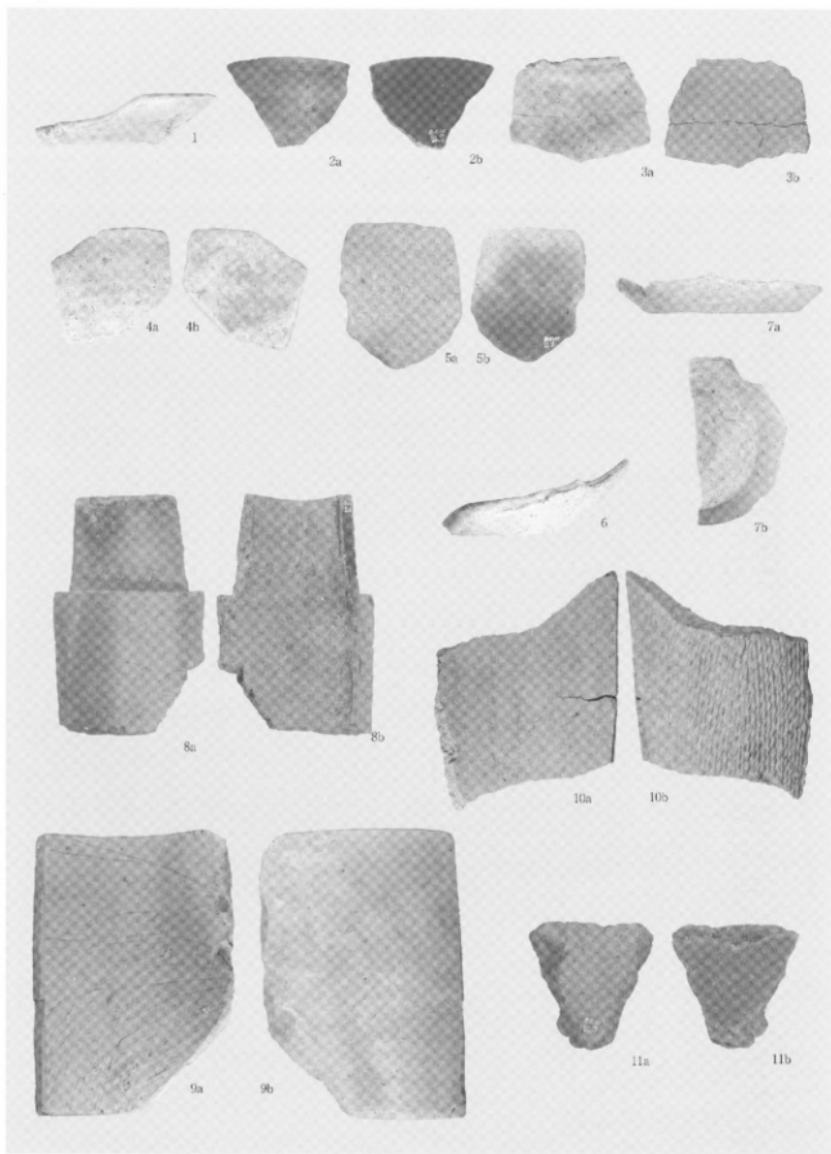


2 調査区南壁断面（北西から）



3 調査区東壁断面（西から）

図版2 P 2 完掘および調査区断面



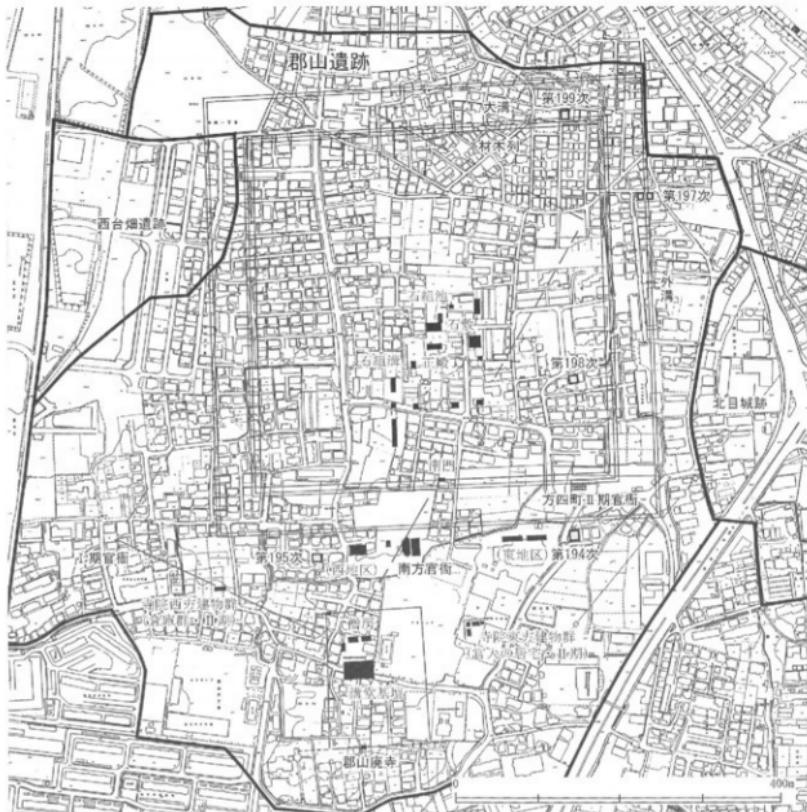
図版3 出土遺物

VII 郡山遺跡

平成21年度に実施した個人住宅建築に伴う発掘調査は、第1表・第1図の通りである。なお、調査の結果及び抄録は仙台市文化財調査報告書第373集『郡山遺跡30』に所収している。

第1表 調査実績

調査次数	調査地区	調査範囲	調査期間	調査実績
郡山遺跡第94次	東方官衙西側区	36af	平成21年4月20日～4月29日	個人住宅地
郡山遺跡第95次	東方官衙西側区	20af	平成21年6月22日～6月24日	個人住宅地
郡山遺跡第197次	且崩官衙外郭東北邊	18af	平成21年11月30日	個人住宅地
郡山遺跡第198次	且崩官衙東部	30af	平成21年12月2日～12月11日	個人住宅地
郡山遺跡第199次	且崩官衙大廈北邊	20af	平成21年12月14日～12月18日	個人住宅地



第1図 調査地点位置図

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん									
書名	仙台平野の遺跡群									
圖書名	平成21年度発掘調査報告書 鴻ノ巣遺跡他									
番号	X X									
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書									
シリーズ番号	第371集									
編著者名	森田義史 鈴木謙 大久保尚生 佐々木洋 萩地貴博 千葉恭彦									
編集機関	仙台市教育委員会									
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1-1 電話 022-214-8891									
発行年月日	平成22年3月31日									
ふりがな 所取遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積				
		市町村	遺跡番号			測量原因				
鴻ノ巣遺跡 (第12次)	仙台市宮城野区岩切字三所北 125-28	04100	01034	38° 17' 51"	140° 57' 05"	2009.5.25 2009.5.27	88.64m ²	個人住宅 建築		
小鶴城跡 (第5次)	仙台市宮城野区新田三丁目 44-1、45-1の一部	04100	01194	38° 16' 36"	140° 55' 57"	2009.9.28 2009.9.29	24m ²	個人住宅 建築		
大野田古墳群 (第19次)	仙台市大野田字宮島19、 20-1、-3、-5、-21の一部	04100	01361	38° 12' 43"	140° 52' 45"	2009.10.19 2009.10.22	41.25m ²	個人住宅 建築		
南小泉遺跡 (第63次)	仙台市宮城野区塩竈二丁目106 -7、106-9、106-2の一部	04100	01021	38° 14' 14"	140° 54' 35"	2009.10.26 2009.11.13	73.3m ²	個人住宅 建築		
燕沢遺跡 (第13次)	仙台市宮城野区岩切字三所北 124-5	04100	01001	38° 17' 52"	140° 57' 05"	2009.11.16 2009.11.19	21m ²	個人住宅 建築		
所取遺跡名	種別	土な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項		
鴻ノ巣遺跡 (第12次)		弥生、古墳、奈良 平安、中世	溝跡	土師器、須恵器、 中世陶器		過去の測量 と接続する 遺跡				
小鶴城跡 (第5次)	城館跡	中世	溝跡	なし		小鶴城跡西 部の附跡				
大野田古墳群 (第19次)	古墳	古墳	古墳周溝	埴輪土器、埴輪、石器		大野田40分 溝の周溝				
南小泉遺跡 (第63次)	集落跡・屋敷跡	弥生、古墳、奈良 平安、中世、近世	竪穴式居跡、 上坑	土師器、須恵器		3軒の竪穴 居跡				
燕沢遺跡 (第13次)	集落跡・寺院跡	縄文、弥生、古墳 奈良、平安	性格不明遺 構	瓦		多賀城創建 期に遡る平 瓦				
鴻ノ巣遺跡では2時期の溝跡面で大小5つの溝跡が検出された。そのうちSD1溝跡は検出幅約4m、 深さ約80cmで、平成20年度測量のSD1溝跡の南端延長部分と考えられる。堆積土中から13世紀代の常 清漬やロクロ土師器・須恵器が出土した。										
小鶴城跡では、城の南西側において崖跡と考えられる溝跡を検出した。溝の検出幅は約5.5m、検出 面からの深さは最大70cm程度である。出土遺物はなく、埋没年代は不明である。										
大野田古墳群では古墳の周溝が検出され、新たに大野田40号墳となった。周溝の外縁径は約20mで、円 墳と推定される。周溝内からは円筒埴輪片の他、宝ヶ峰式の埴輪土器が出土している。										
南小泉遺跡では3軒の竪穴住居跡が検出された。そのうちS I 2・S I 3竪穴住居跡は切り合い関係 にあり、新しいS I 3竪穴住居跡は床面出上遺物から平安時代の年代が与えられる。										
燕沢遺跡では、遺構は不明確であるが、多賀城IA類と考えられる平瓦が出土した。多賀城創建後 の年代が想定される。										

要約

仙台市文化財調査報告書第371集
仙台平野の遺跡群XX
発掘調査報告書
2010年3月

発行 仙台市教育委員会
仙台市青葉区二日町1-1

文化財課 TEL 022(214) 8894

印刷 遠山青葉印刷株式会社
仙台市青葉区本石道1-1-5-21
TEL 022(222) 7371
